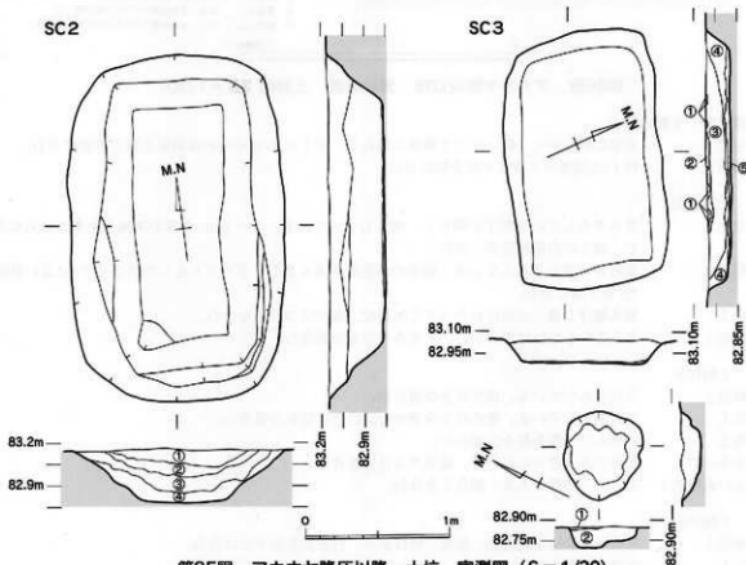
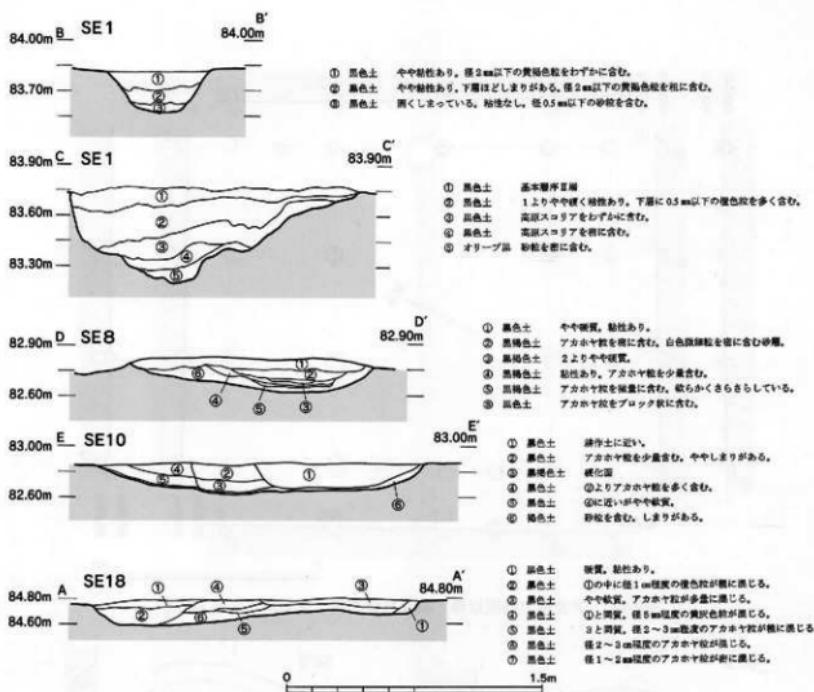


第84図 アカホヤ降灰以降 掘立柱建物跡 実測図 ( $S = 1/80$ )



第85図 アカホヤ降灰以降 土坑 実測図 ( $S = 1/30$ )



第86図 アカホヤ降灰以降 溝状遺構 土層図 (S=1/30)

#### 掘立柱建物跡 土層注記

- ① 黒色土 非常に軟らかく、軽い圧力で簡単に崩れる。径1~2cm程度の黄褐色粘土質土を密に含む。
- ② 黒褐色土 径1cm程度のアカホヤ粒を粗に含む。

#### 土坑2 土層注記

- ① 黒色土 さらさらしていて粒子が細かく、固くしまっている。1~5mm程度の明褐色粒をまばらに含む。極小の白色粒を多く含む。
- ② 黒褐色土 柔らかくさらさらしている。極小の白色粒を多く含む。ざらざらとしたスコリア(にぶい黄褐色)を下層に含む。
- ③ 黒色土 基本層序II層 全体にわたって5%程度、高原スコリアを含む。
- ④ 黒褐色土 さらさらしていて柔らかい。アカホヤ粒を少量含む。

#### 土坑3 土層注記

- ① 黒褐色土 さらさらしている。橙色粒を少量含む。
- ② 黑色土 さらさらしている。橙色粒を少量含む。白色砂粒を少量含む。
- ③ 黒色土 粘性あり 橙色粒を少々含む。
- ④ 灰オリーブ土 砂質でざらざらしている。高原スコリアを含む。
- ⑤ にぶい黄褐色土 柔らかく粘性がある。黒色土を含む。

#### 土坑1 土層注記

- ① 暗灰色土 アカホヤ粒を少量含む。硬質、粘性あり。白色粒をわずかに含む。
- ② 黑色土 軟質、粘性あり

は折れた状態で出土し復元状況は分からぬが、上部は付け根部分に1～2回の捩りが見られるとともに、壺部が、「く」の字に屈折している。時期については明らかにできないが、古墳時代以降ではないかと考えられる。

#### SE12 [第83図]

B区北部を東西に走り、SE1と直行している。切り合ひから、SE12が古いと判断した。硬化面が部分的に見られた。

#### SE7 [平面図・第83図、土層図・第86図]

C区を東西に走る。西部は調査区外に延びているが、東部は削平によりSE8以東が確認できなかった。第86図で分かるように段掘りしているが、これは、遺跡内他の遺構には見られないものである。埋土中④⑤層に高原スコリアが確認された。SC2とほぼ同じ検出状況である。やはり最下層に砂層があることから、流路であった可能性が高い。

#### SE8 [平面図・第83図、土層図・第86図]

C区北端からD区南東端まで約100mに渡っている。両端とも調査区外に延びている。現耕作土の畦直下で検出し、畦に沿って延びていた。埋土が黒褐色土とアカホヤの混在層であることから時期的に新しいと思われる。埋土中より、土師器片や須恵器片が出土した。このうち須恵器片(380)を掲載した。

#### SE10 [平面図・第83図、土層図・第86図]

D区南西端で検出された。やはり南北に延びており、南端は調査区外に延びているが、北部はアカホヤが削平されており、北上するほど溝幅が狭くなつてV層上面で途切れるというものであった。埋土より、3期にわたって造成されていることが分かった。1期目は埋土⑥に見られる溝幅全体である。最下部に砂粒を含んでおり、流路であったと思われる。2期目は、埋土③の硬化面である。非常に硬質で、厚さも10cm程度残っていた。埋土①で切られ全体像は確認できないが、一時期、「道」として利用していた可能性がある。3期目は埋土①であるが、新しい時期のものであると思われる。

## 2 遺構外出土遺物

### 陶磁器 [第88図] (381～384)

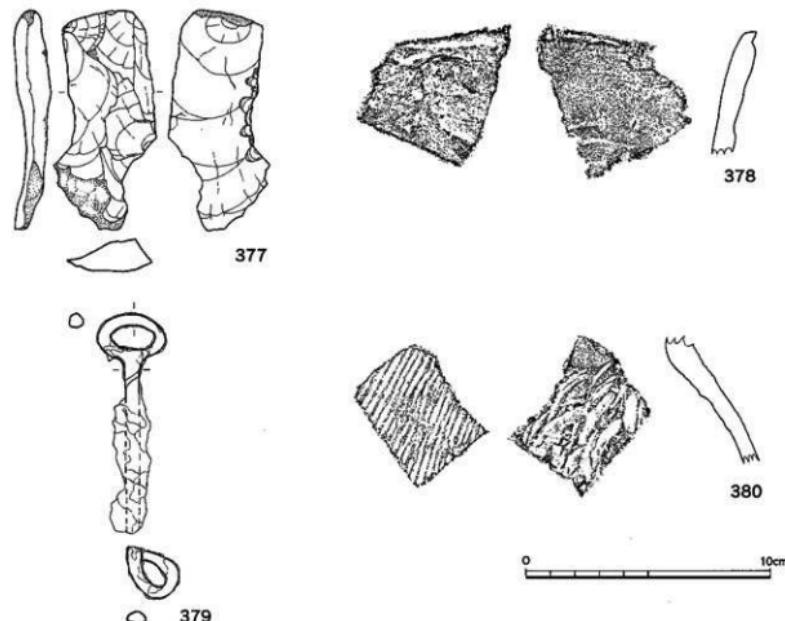
7点出土したが、いずれも小片である。このうち4点掲載した。383の陶器は、近世の唐津焼である。

#### 土器

遺構内出土遺物として前述した以外に、土師器片が8点出土した。いずれも小片で2点のみ観察表に掲載した。

### 石器 [第88・89・90図] (385～406)

31点出土した。内訳は、石礫3点(表土を含む)、蔽石1点、台石1点、石核2点、二次加工剥片1点、剥片23点、碎片1点である。剥片のうち接合資料が12点、これと同一母岩と思われるものが7点ある。385・386はチャート製の石核である。いずれも単独で出土した。387～389は石礫である。387・388は黒曜石製であるが、前者は姫島産である。389はチャート製であるが<sup>1</sup>、前述の早期異形石器と石材が酷似している。3点とも全体形が二等辺三角形をしており、基部は387が浅い抉り、残りがV字形の深い抉りを施している。390は尾鈴山酸性岩製の剥片であるが<sup>1</sup>、礫面及び割れ面の色調、質感が前述の377、後述の接合資料3・4と酷似しており、同一母岩と判断した。391はホルンフェルス製の剥片であるが<sup>1</sup>、



第87図 アカホヤ層灰以降 SE 1・8内出土遺物 実測図 (S=1/2)

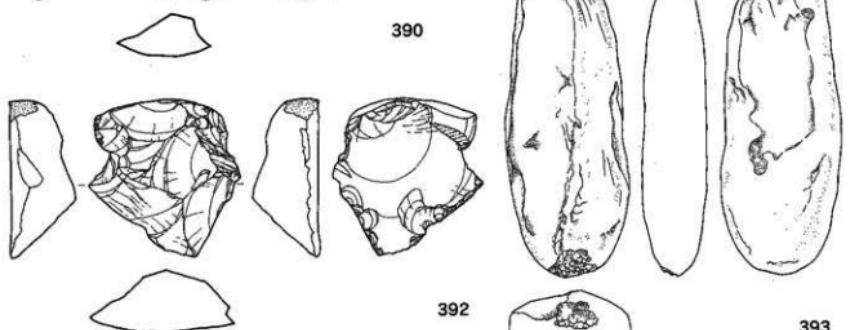
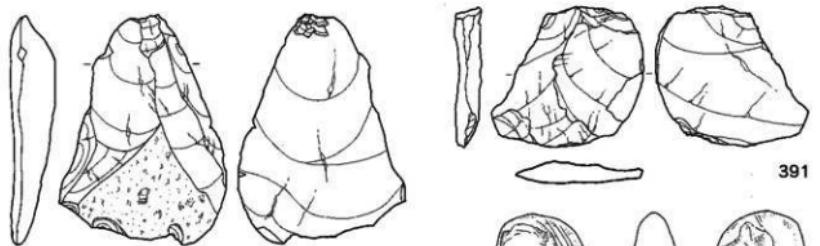
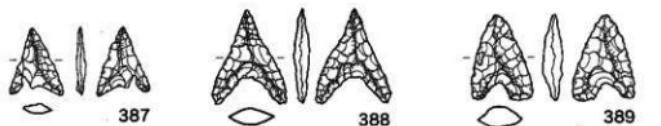
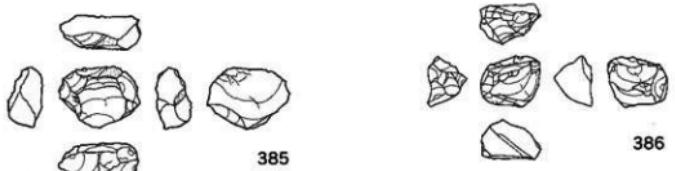
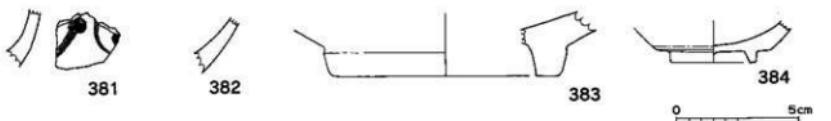
この石材は唯一で他に見られない。392は確認調査時の出土で座標を示せないが、第84回溝状構1周辺の石器集中エリア内II層黒色土中である。素材剥離時の縞面をわずかに残し、正面裏面にそれぞれ二次加工を加えている。393はSE7検出面で出土した。長軸一端に敲打痕が見られる。

394～399は接合資料3である。SE1直上のII層面出土である。397が表土中であるが、調査の経過でも述べたように、周辺はトレンチャーによる擾乱を受けており、巻き上げられたものと考えられる。折れ面同士が中心の接合である。

400～406は接合資料4である。分布は接合資料とほぼ同じで、同一母岩と思われる。405はSE1埋土①層出土であるが、この埋土は、基本層序II層と特徴が一致している。このことから、接合資料3・4が作り出された時期には、SE1は完全に埋まっていたということが言える。

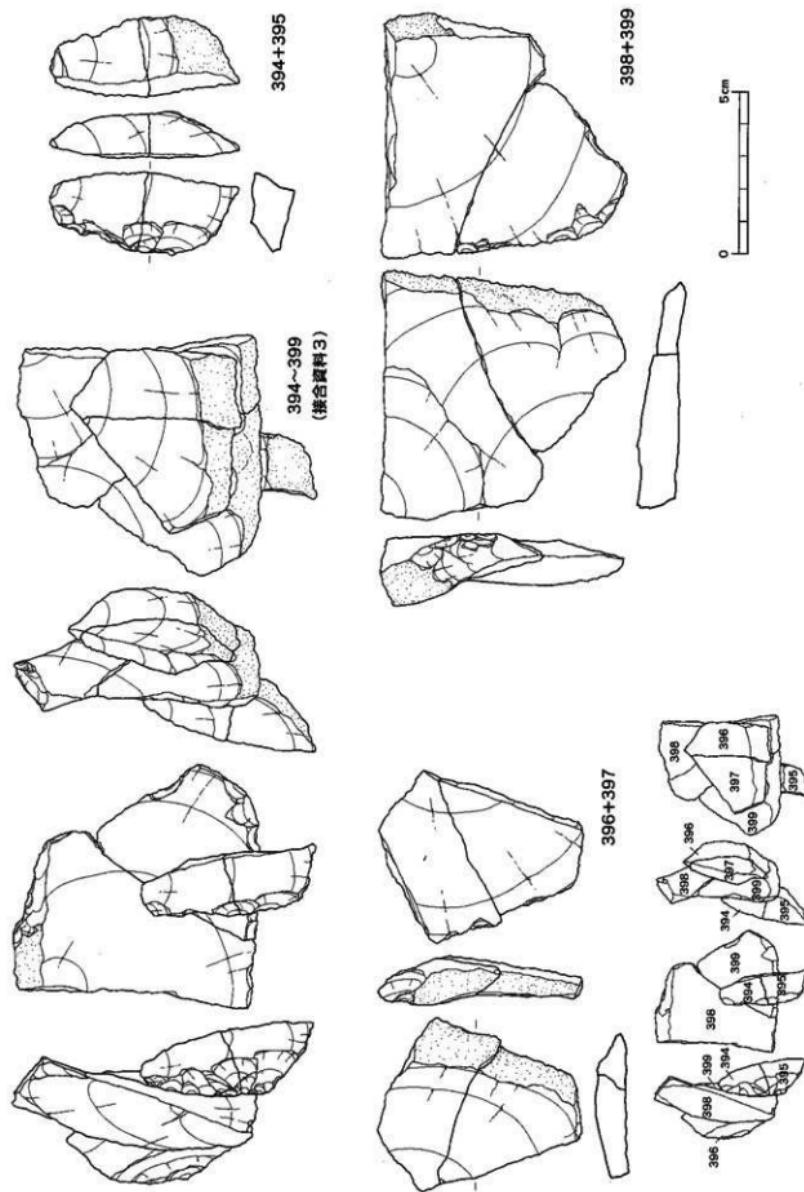
### (3) 小結

流路に伴うと思われる遺構が大半を占め、遺物量も散漫であったことから、時代的な絞り込みができなかった。一方、近隣の台地の縁に位置する下耳切第3遺跡では縄文時代前期～古墳時代の集落の痕跡が調査されている。本遺跡において流路が多いこと、水辺であった痕跡が残されていることなどとあわせると、居住空間を取り囲む森林もしくは草原地帯であったと考えるのが妥当であろう。

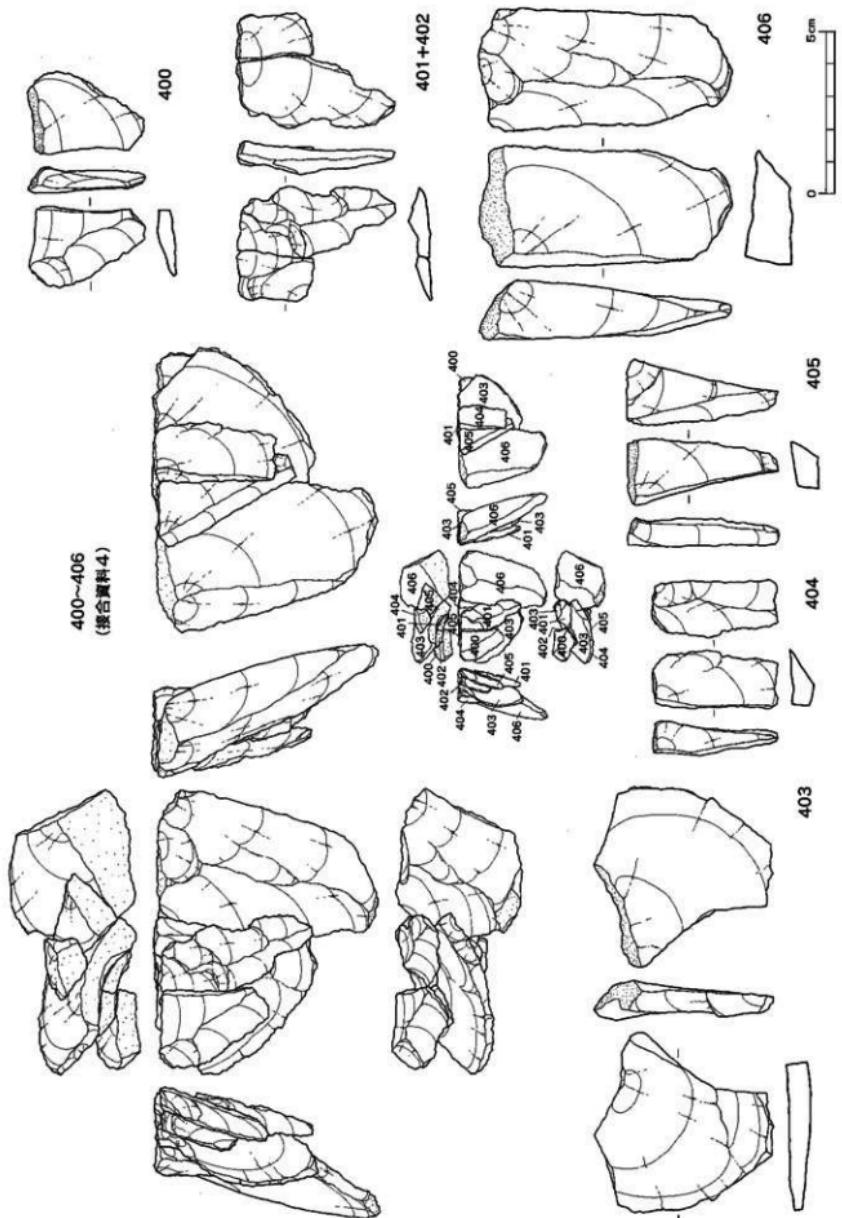


第88図 アカホヤ降灰以降 造模外出土遺物 実測図

第89図 アカホヤ隕石以降 接合資料3 寶洲圖 (S=2/3)



第90図 アカホヤ隕石以降 接合資料4 察測図 (S=2/3)



番号	記号	区	グリッド	層	器種	状況	石材	母岩	接合部大きさ(cm)	底標高(cm)	底標高(cm)	底座(g)	X座標	Y座標	レベル	
377	841	B	H5	II	剥片	SE1埋土	馬鹿山黒岩	尾鉈A	1.4	4.2	1.5	44.0	-95743.200	45551.200	84.022	
385	802	B	H6	II	石核		石英		1.9	2.5	1.1	5.0	-95749.800	45541.360	83.380	
386	807	B	I6	II	石核		チャート	チャートA	1.6	1.8	1.2	3.0	-95753.090	45542.840	83.951	
387	12	C	L10	II	石鐵		黒曜石		2.1	1.7	0.2	0.6	-95787.206	45502.620	82.586	
388	799	B	I7	II	石鐵		黒曜石		2.9	2.3	0.6	1.4	-95753.650	45539.110	83.792	
389	表土	A			石鐵		チャート		2.7	2.0	0.7	2.3				
390	826	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	9.4	6.8	1.7	94.0	-95740.800	45549.070	84.218	
391	794	B	J6	II	剥片		セシルチャート	その他	5.7	6.1	1.1	37.0	-95782.950	45543.800	83.266	
392	844	B		II	二重構造	補強網	セシルチャート	その他	6.4	6.1	2.7	94.0				
393	8	C	L11	II	敲石		セシルチャート	その他	17.7	5.0	2.7	254.0	-95788.350	45491.130	83.512	
394	813	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	4.1	3.3	1.1	-95744.250	45551.100	84.161	
395	819	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	4.0	3.4	2.1	-95744.780	45550.510	84.180	
396	810	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	7.0	3.6	1.6	-95746.650	45550.440	84.100	
397	表土	B			剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	7.1	4.9	1.1	40.0			
398	806	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	10.2	6.8	2.3	152.0	-95749.170	45548.620	84.085
399	825	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	3	7.9	5.5	1.5	64.0	-95741.690	45550.600	84.160
400	816	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	4.8	3.3	1.0	-95745.050	45494.130	84.109	
401	812	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	6.5	3.0	1.0	15.0	-95744.920	45550.420	84.106
402	814	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	3.2	2.0	0.7	5.0	-95744.770	45550.340	84.060
403	817	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	7.3	7.3	1.5	58.0	-95744.390	45549.290	84.120
404	811	B	H5	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	5.1	2.5	1.1	5.0	-95745.210	45551.240	84.154
405	838	B	H5	II	剥片	SE1埋土	馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	6.1	2.7	1.1	19.0	-95745.850	45550.350	83.833
406	815	B	H6	II	剥片		馬鹿山黒岩	尾鉈A	4	10.3	5.0	2.3	132.0	-95745.120	45549.240	84.096
	803	B	H7	II	碎片		頁岩		0.9	0.6	0.3	0.1	-95747.170	45533.930	84.021	
	3	C	O12	II	台石		馬鹿山黒岩		8.3	13.6	4.3	1300	-95815.490	45488.550	83.212	
801	B	I7		II	剥片		チャート	チャートA	1.2	0.6	0.4	0.3	-95750.550	45539.250	83.995	
827	B	H5	II	剥片			馬鹿山黒岩	尾鉈A	3.4	3.2	1.1	12.8	-95742.690	45551.860	84.136	
828	B	H5	II	剥片			馬鹿山黒岩	尾鉈A	2.0	1.7	1.0	3.5	-95741.920	45551.700	84.185	
837	B	H5	II	剥片	SE1埋土	馬鹿山黒岩	尾鉈A	4.4	3.3	1.0	14.6	-95744.350	45550.350	83.967		
839	B	I6	II	剥片	SE1埋土	馬鹿山黒岩	尾鉈A	3.7	3.5	1.1	17.2	-95756.000	45545.800	83.465		
840	B	J6	II	剥片	SE1埋土	馬鹿山黒岩	尾鉈A	5.4	3.8	1.8	38.9	-95760.000	45544.500	83.395		
843	B	E4	II	剥片		セシルチャート	その他	4.2	2.5	0.7	8.6	-95716.190	45563.630	84.300		
886	D	S18	II	剥片	石英				1.2	1.6	0.5	0.9	-95850.875	45424.275	83.028	

第25表 アカホヤ降灰以降 石器計測表

番号	種別	器種	部位	出土 地点	法量(cm)		手法・調節・文様ほか				色・調		胎土の特徴・焼成	備考	
					外径	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面	胎土調	胎土調		
375	織文	口輪	脚部	B-G5	-	-	-	粗いナデ	ナデ	明褐色	にぶい 黄褐色	良好	1~3mmの白色不透明粒	1~3mmの黑色 無光沢粒	SE I墨 ±
380	須恵器		脚部	C-L10	-	-	-	斜め平行の叩き痕	當て具痕	黃灰	黄褐色	良好	1mm程度の黑色無光沢粒	1mm以下の 墨色粒	SE B墨 ±
-	土師器		脚部	D-T19	-	-	-	ナデ 部分的に スス付着	ナデ	にぶい 橙	黄褐色	良好	1.5mm以下の中墨色、朱色粒		±
-	土師器		口縁部	D-U18	-	-	-	ナデ	ナデ	橙	にぶい 橙	良好	1~3.5mmの墨灰色粒	1mm以下の灰色 粒	±

第26表 アカホヤ降灰以降 土器観察表

番号	種別	器種	部位	出土 地点	法量(cm)	手法・調節	文様ほか	胎土調	胎土	備考
381	磁器	瓶	脚部	D-T18	-	-	-	施釉	灰白	精良・聖級
382	磁器	壺	脚部	C-N11	-	-	-	施釉	灰白	オリーブ青 精良・聖級
383	陶器	壺	底部	C-L10	-	9.4	-	無釉	明赤褐色	精良・聖級
384	磁器	小皿	底部	B-J5	-	3.4	-	施釉	淡黄	精良・聖級
										黒付き青緑

第27表 アカホヤ降灰以降 陶磁器観察表

## 第6節 自然科学分析

枝条密度(単位: ×1000/m<sup>2</sup>)

分類群	学名	D区北								SC-4					SC-5	
		4	5	T	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	1	2
イネ科	Gramineae (Gramine)															
キビ形属	Panicina type	14	T	36	15	36	6	7	14	7						7
ヨシ属	Poaceae (reed)	29	T	7												
ススキ形属	Aristidae type	T	14							14						
ウサクサ形A	Andropogoneae A type	20	14	64	23	88	49	19	21	48	21	43	20	22	26	69
ウサクサ形B	Andropogoneae B type						T			T						6
モロコシ形属	Sorghina type						15									
Bタイプ	B type												T	14		
Cタイプ	C type			T									6	7		
タケ形属	Gramineae (Mimulus)															
メダガサ形	Pleiodontea sect. Medula	27	181	178	T	T										7
メダガサ形	Pleiodontea sect. Nervosa	66	547	164	22	T	28									8
クマザサ形属	Sax (except Miyakozax)	26	181	57	171	72	28	38	7	154	28	26	20	43	25	82
ミヤコザサ形属	Sax sect. Miyakozax	26	72	71	114	314	119	268	230	49	318	186	169	167	257	381
未分類	Others	26	184	178	43	58	77	15	7	91	48	25	13	20	36	52
その他カイコ	Others															
洗皮毛根	Husk hair origin	T	T	14	T	7	13	14	23	7	31	20	14	19	14	
棒状根	Rod-shaped	36	255	128	28	88	38	61	21	98	21	50	65	81	64	95
茎状根	Stem origin															
未分類	Others	288	682	677	462	583	358	378	258	426	330	322	312	282	347	465
樹木形体分析	Axes															
その他	Others	T														
植物珪酸体分析	Total	681	2971	1854	924	1227	750	794	561	879	651	668	650	623	784	1053

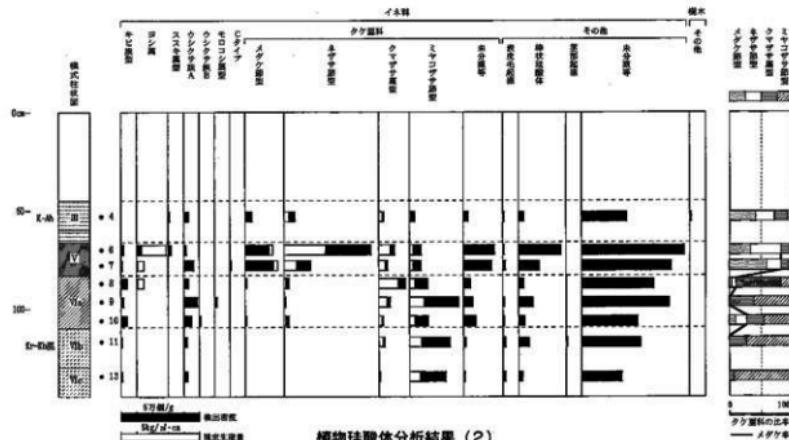
おもな分類群の検定値(単位: kg/m<sup>2</sup>cm<sup>2</sup>)

アシ形属	Pleiodontea (medula)	1.82	0.48	0.45												
メダガサ形	Pleiodontea sect. Medula	0.09	0.18													
メダガサ形	Pleiodontea sect. Nervosa	0.43	1.75	2.07	0.98	0.98				0.17					0.07	0.08
メダガサ形	Pleiodontea sect. Nervosa	0.32	2.62	0.78	0.14	0.04	0.13								0.05	0.10
クマザサ形属	Sax (except Miyakozax)	0.22	0.76	0.45	1.28	0.55	0.21	0.28	0.06	1.15	0.31	0.19	0.15	0.33	0.19	0.62
ミヤコザサ形属	Sax sect. Miyakozax	0.09	0.22	0.21	0.34	0.94	0.36	0.78	0.09	0.15	0.65	0.56	0.87	0.59	0.77	0.78

タケ形属の比率(%)

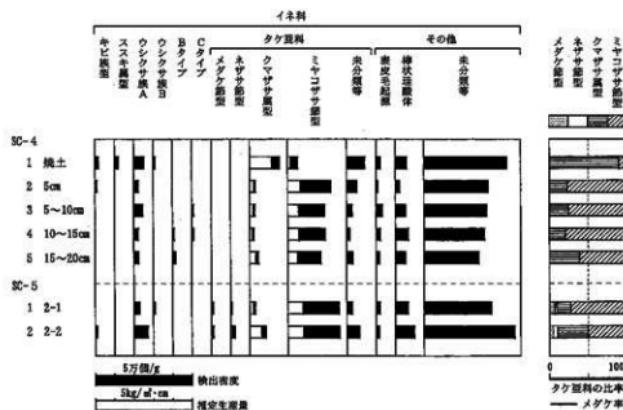
アシ形属	Pleiodontea sect. Medula	41	35	59	4	10									7	5
メダガサ形	Pleiodontea sect. Nervosa	30	48	23	7	2	17								3	6
クマザサ形属	Sax (except Miyakozax)	21	14	12	70	36	27	27	T	29	24	25	21	39	18	39
ミヤコザサ形属	Sax sect. Miyakozax	5	4	5	19	62	46	72	23	11	78	76	78	61	75	50

植物珪酸体分析結果(1)



植物珪酸体分析結果(2)

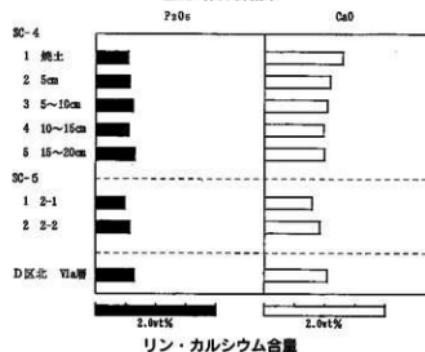
第28表 自然科学分析資料(1)



単位: wt(%)

原子No 化学式	SC-4					SC-5		D区北
	1	2	3	4	5	1	2	Via層
12 MgO	0.49	0.75	0.56	0.46	0.85	0.50	0.30	0.07
13 Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	33.25	33.02	33.48	32.37	30.32	34.19	34.96	32.51
14 SiO <sub>2</sub>	52.78	48.85	50.51	50.88	51.83	47.89	48.59	49.43
15 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.54	0.56	0.61	0.55	0.55	0.48	0.58	0.62
16 SO <sub>3</sub>	0.48	0.50	0.53	0.68	0.70	0.82	0.83	
19 K <sub>2</sub> O	1.43	1.42	1.56	1.65	1.81	1.70	1.08	1.35
20 CaO	1.30	1.09	1.04	0.98	1.00	0.80	0.92	1.05
22 TiO <sub>2</sub>	1.20	1.11	1.04	1.15	1.17	1.24	1.26	1.31
25 MnO	0.13	0.26	0.25	0.27	0.25	0.31	0.30	0.31
26 Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	8.40	12.63	10.42	11.22	11.41	12.08	12.03	12.51

#### 螢光X線分析結果



第29表 自然科学分析資料 (2)

## 第6節 まとめ

以上述べてきたように、各時代・各文化層ごとの特徴を概観してきた。本節では、特筆すべき事項について、若干の言及を行い、まとめとしたい。

### 旧石器時代第Ⅰ文化層(AT下位)出土の水晶製石器について

AT下位暗褐色ローム(MB2)直上で水晶を石材とした石器が4点出土している。石核及び剥片が各2点と僅かであり、接合関係も認められなかったことから、どのような剥離作業が行われたか明らかにすることはできなかった。水晶を石材とする石器については、児湯郡内では、川南町の藏庄村遺跡(平成11年度調査)や、隣接する銀座第3A遺跡(第3章報告)で出土している。また、東九州自動車道関連では、高鍋町の唐木戸第3遺跡でも出土している。前者は縄文時代早期層、後者は小林輕石層である。本遺跡のようにAT下位となると北方町の矢野原遺跡があげられる程度で類例が少ない。

### 旧石器時代第Ⅱ文化層の設定について

第Ⅱ文化層の設定にあたっては、分布状況に若干のレベル差が認められたものの、遺物出土の連續性や接合状況からVI層～VIIa層までをひとまとめてとらえて報告した。D区南西部に限ってみると、面的に約800m<sup>2</sup>、レベル的に約1.5mの範囲に約800点もの遺物が集中していた。ここには今峰型のナイフ形石器をはじめ、台形石器・剥片尖頭器等、多彩な製品が見られるとともに接合資料も多數確認できた。この中で今峰型ナイフ形石器は、ほとんどがVIIc層出土と小林層の下部に位置している。同層からは、台形石器や二側縁のナイフ形石器も併せて出土し、共伴関係にあると言える。一方、剥片尖頭器を見てみると、ほぼ同位層から下部のVIIa層にかけて出土している。「今峰型ナイフが剥片尖頭器の退化形態」という考え方からすると、一定の時期差が存在する可能性も否定できない。

### 尖頭器について

第4節-2で述べたように、361について出土層位、周辺遺構の時期から縄文時代草創期に位置づけた。この時期の尖頭器については、本県高千穂町の阿蘇原上遺跡において確認されているが、町内及び周辺市町村での類例がほとんどなく、比較資料に乏しいのが現状である。

### 高原スコリアを埋土とする土坑について

第4節-3で述べたように、SC2の埋土中に高原スコリアを確認できた。このSC2は遺物を伴わぬず使途不明であるが、同様の大きさ・形状の遺構が、東九州自動車道関連の複数の遺跡で確認されている。埋土に高原スコリアを含むこと、時期比定できること、遺物が出土しないこと、他の遺構と共伴せず单独で検出されていることなども共通しており、遺構の性格や用途については今後解明すべき課題である。

以上特徴的な石材・器種・遺構について述べてきた。今後の調査が進む中で、議論の対象となることを切に願いたい。

### 【引用参考文献】

- 宮崎県埋蔵文化財センター2000「上ノ追遺跡」 宮崎県埋蔵文化財発掘調査報告書第40集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2001「木脇遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第43集
- (財)北海道埋蔵文化財センター平成12年度「白流遺跡群II」
- (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第154集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2001「東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査報告書I」  
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第49集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2002「東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査報告書II」  
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第64集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2003「東九州自動車道（都農～西都間）関係埋蔵文化財発掘調査報告書III」  
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第76集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2002「南学原第1遺跡、南学原第2遺跡」  
宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第50集
- 宮崎県埋蔵文化財センター2003「阿蘇原上遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第71集



北牛牧第5遺跡近景（南より）



アカホヤ降灰以降 遺構検出状況 一次調査（西より）



A 1区25%掘り状況（東より）



旧石器時代第Ⅰ文化層石器出土状況



D区Ⅷa層面剥片尖頭器出土状況



C区Ⅷa層面礫出土状況（北より）



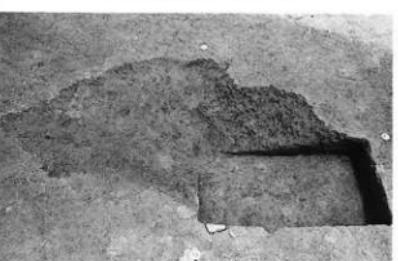
S 12検出状況（南より）



S 19検出状況（東より）



S 10検出状況（西より）



S C 6完掘状況（南より）



S I 1 棲出状況（北より）



S I 13 棲出状況（北より）



S C 5 完掘状況（東より）



S C 17 完掘状況（北より）



S C 4 半截（西より）



S C 10 完掘状況（南より）



S C 7 断面（西より）



S C 7 底部付近（西より）



SB 1 完掘状況（東より）



SE 1 完掘状況（南より）



SE 8 完掘状況（北より）



SE 7 完掘状況（東より）



SC 2 完掘状況（南より）



SC 2 土層断面



SC 3 完掘状況



SE 10 土層断面



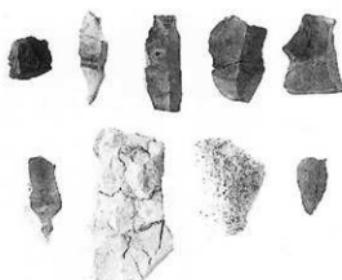
旧石器時代第1文化層出土石器①



旧石器時代第1文化層出土石器②



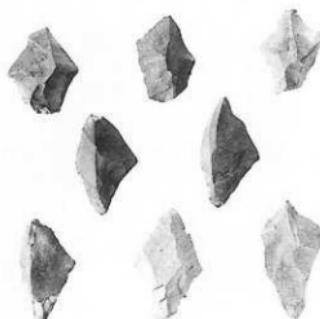
A～C区出土石器①



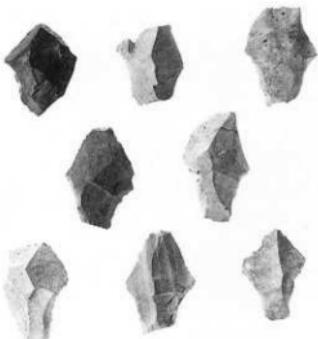
A～C区出土石器②



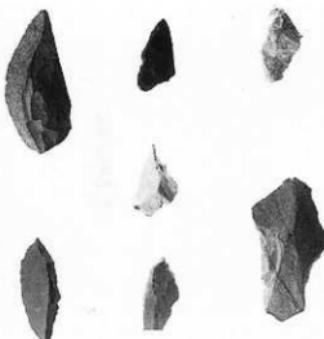
台形石器



ナイフ形石器①



ナイフ形石器②



ナイフ形石器③



敲石・台石



スクレイバー・石核



剥片尖頭器



碟器（接合資料15）



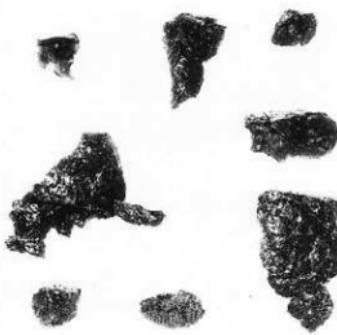
石材別（ホルンフェルス）



石材別（尾鈴山酸性岩）



石材別（細粒砂岩）



石材別（黒曜石）



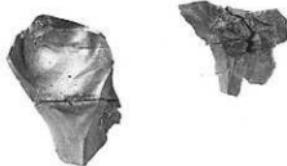
石材別（流紋岩① 接合資料19）



石材別（流紋岩②）



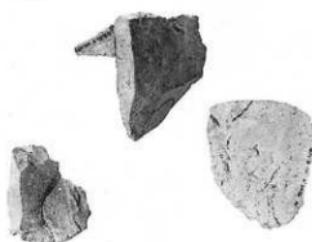
石材別（流紋岩③ 接合資料52）



石材別（流紋岩④ 接合資料53・54・55・56）



石材別（頁岩① 接合資料37）



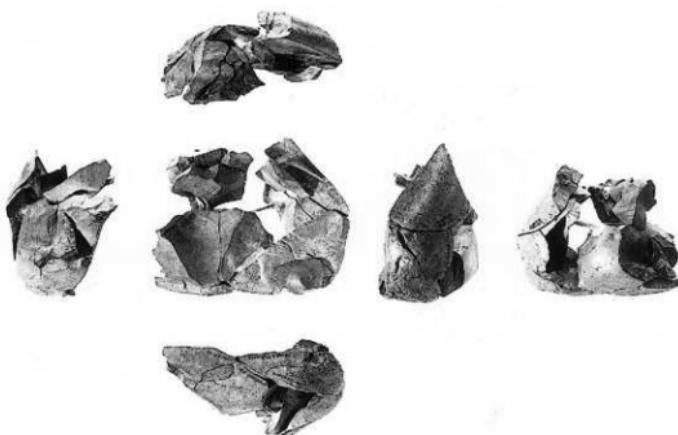
石材別（頁岩② 接合資料36・61・30・32・33）



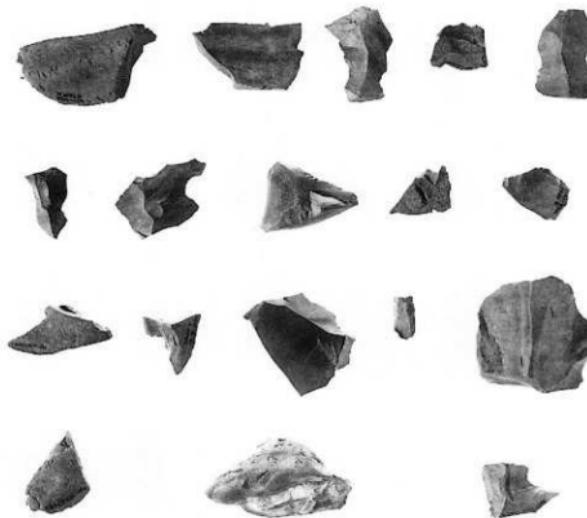
石材別（頁岩③ 接合資料12）



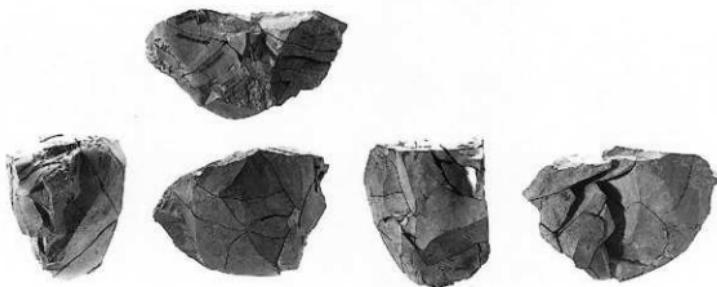
石材別（頁岩④ 接合資料21・35・31・38・39）



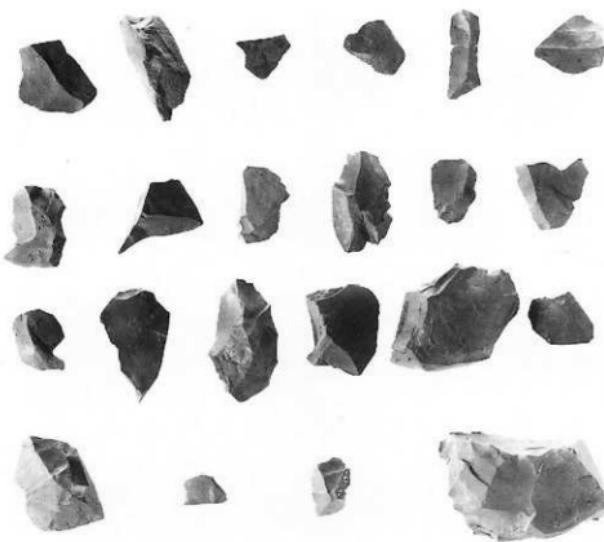
石材別（頁岩⑤ 接合資料37）



石材別（頁岩⑥ 接合資料37）



石材別（頁岩⑦ 接合資料17）



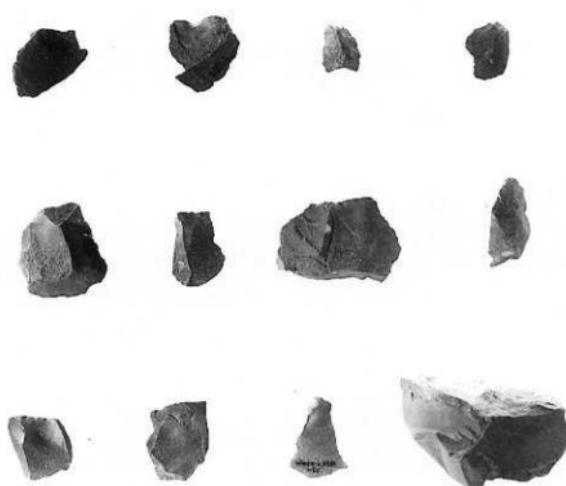
石材別（頁岩⑧ 接合資料17）



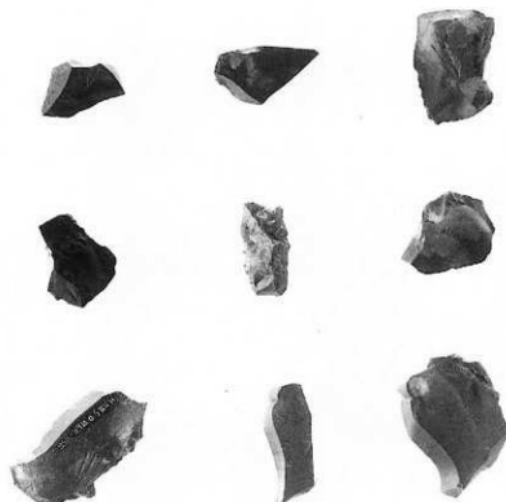
石材別（頁岩⑨ 接合資料21）



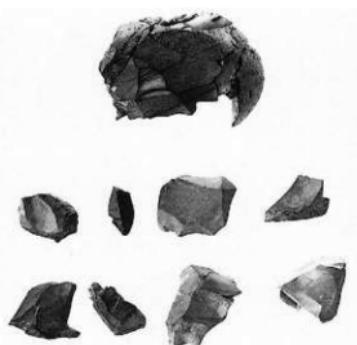
石材別（頁岩⑩ 接合資料21-a 21-b）



石材別（頁岩① 接合資料21-a）



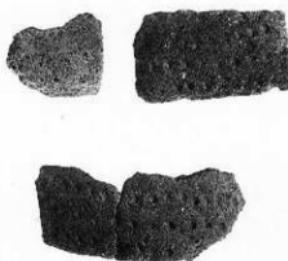
石材別（頁岩② 接合資料21-b）



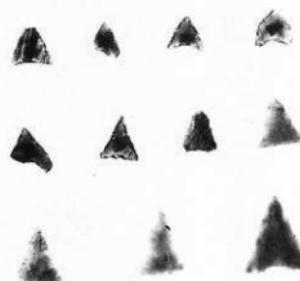
石材別（頁岩⑬ 接合資料43）



旧石器時代第Ⅲ文化層出土石器



縄文時代早期土器



縄文時代草創期～早期出土石器①（石器）



縄文時代草創期～早期出土石器②（石器）



縄文時代草創期～早期出土石器③



縄文時代草創期～早期出土石器④



縄文時代草創期～早期出土石器⑤



SE 1・SE 8内出土遺物



アカホヤ降灰以降出土陶磁器



アカホヤ降灰以降出土石器①



アカホヤ降灰以降出土石器②



銀座第3A遺跡





第1図 銀座第3A遺跡 調査区および周辺図 (S = 1/4,000)

0

400m

## 第III章 銀座第3A遺跡

### 第1節 調査の位置と歴史的環境

銀座3A遺跡は、児湯郡川南町大字川南字明野に位置する。遺跡の位置する川南町は、日向灘に面した宮崎県中部にあり、上面木山(1,040m)から派生する山地及び丘陵面とその東麓から海岸にかけて広がる段丘面からなる。段丘面は、一連の平坦面ではなく、崖によって区別され、青鹿面・茶臼原面・国光原面・唐瀬原面・川南原面などの計14面から構成される。本遺跡は、川南町市街地から北西へ約3km、14面のうち1面の唐瀬原面との境目付近の標高約145mの丘陵縁辺部に位置する蔵座村遺跡に隣接する。遺跡の周辺は、調査例は少ないが平成14年度から本遺跡と同時に銀座第1遺跡と銀座第2遺跡の調査が行われている。

旧石器時代遺跡の調査例は少なく、後半田遺跡、霧島遺跡、銀座第2遺跡などである。銀座第2遺跡からは、アカホヤ以外は明瞭な火山灰は検出されていないがナイフ形石器を始め石核や剥片等が出土している。他に、大野寅男氏の踏査や川南町の分布調査によって番野地C遺跡・大久保遺跡・谷ノ口遺跡・卒手遺跡という数多くの旧石器時代の遺跡が確認されている。

縄文時代遺跡は、調査例が後半田遺跡、霧島遺跡、蔵座村遺跡、銀座第2遺跡、上野原遺跡と少ない

が、川南町の分布調査によって60ヶ所の遺跡が確認されている。特に押型文土器を伴う早期の遺跡が多く、丸山西原遺跡・松ヶ迫遺跡・大久保遺跡で確認されている。縄文時代は、旧石器時代同様、主に山地及び丘陵地に集中する傾向にある。

弥生時代、川南の台地上や丘陵地縁辺において、特に中期から後期終末にかけて遺跡が急激に増加する。弥生時代の遺跡は、中期が蔵庫村遺跡同様丘陵地縁辺部、後期終末は台地上や丘陵地縁辺部に集中して立地するようである。中期の調査例は未だないが、後期終末は、円形と方形の各一基の周溝墓が確認された東平下遺跡、豊穴住居跡6軒が確認された把言田遺跡、豊穴住居跡2軒と周溝状遺構が確認された野稻尾遺跡の調査例がある。

#### 【引用参考文献】

- |  |   |
|--|---|
| 宮崎県埋蔵文化財センター2002<br>川南町1983<br>川南町教育委員会1983<br>後半田遺跡調査団・川南町教育委員会2002<br>宮崎県埋蔵文化財センター1997<br>茂山謙・大野寅男1977 | 「蔵庫村遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集<br>「第一章 川南の歴史的環境と古代遺跡」「川南町史」<br>「川南町の埋蔵文化財」遺跡詳細分布調査報告書<br>「後半田遺跡」「宮崎県川南町後半田遺跡における旧石器時代の研究」<br>「霧島遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第4集<br>「児湯郡下の旧石器」「宮崎考古」第3号 宮崎考古学会 |
|--|---|

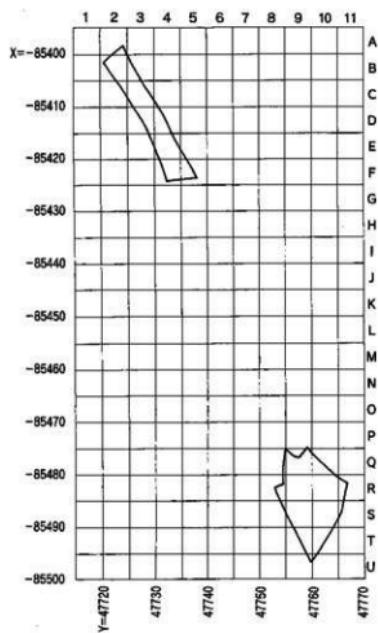
## 第2節 調査の経過と概要

本調査に先立って、平成14年5月2日～5月7日に確認調査を行った。調査対象面積は1,300m<sup>2</sup>であったが、調査区内の伐採が完全に終わってはおらず、図4のように6ヶ所にのみトレンチを入れた。北側では、T 5 IV層において石核が出土、周辺に礫の広がりを確認した。

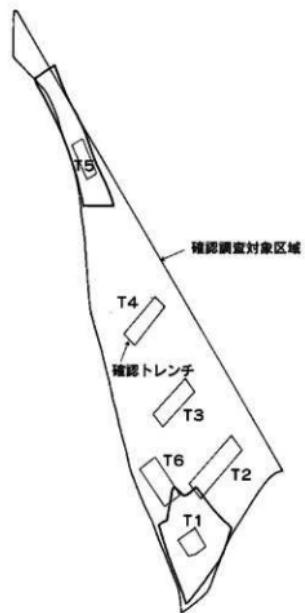
一方、これ以南は耕作等による削平を全面的に受け、T 2～4では、表土下がV層赤褐色土(礫を密に含む)であった。また、この3トレンチの土層は、側方への連続性がなく、地滑りなどを要因とする斜面堆積物と思われる。T 1は南西に落ちる傾斜部分であるが、II・III層が傾斜に添って厚く堆積していた。土器片(押型文)及び石核(チャート製)が出土した。この層の広がりを確認するためにT 6を設定したが、T 2と同様の結果となり、II・III層がT 1周辺の約200m<sup>2</sup>にしか残存していないことが分かった。

以上の結果を受け、本調査対象エリアをT 1・5周辺の約300m<sup>2</sup>に絞って設定した。調査にあたっては、調査区内に国土座標(X Y座標)に乘じた5m単位のグリッドを設定した。南北方向に北からA→U、東西方向に西から1→11を設定し、便宜上A・B区を設け両区平行して調査を始めた。以下、調査の概要を区ごとに述べる。

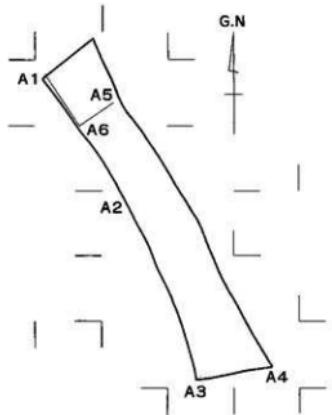
両区とも杉・竹の根が全体に広がり、人力での表土剥ぎは困難を極めた。A区では表土が10~15cm程度しかなく、この中よりナイフ形石器が出土した。II層では、北側で礫の集中エリアが見られたが、炭化物や赤化は確認できず自然為と判断した。北端で幅・深さとも20cm程度の溝状構造が確認された。いずれも遺物を伴わず、埋土が表土であることから、近現代のものと判断し、平面実測のみに留めた。また、礫集中区の北隣で土坑が1基検出された。埋土とII層が酷似していたため、土層確認のためのトレンチでようやく断面を確認した。このため、検出面はIV層上面である。続いてIV層では、F 4グリッドからC 3グリッドにかけての範囲に散漫に礫の広がりが見られた。確認調査時には、このIV層を始良A Tの二次堆積層と判断していたのであるが、剥片とともに土器片が1点出土した。傾斜部であること



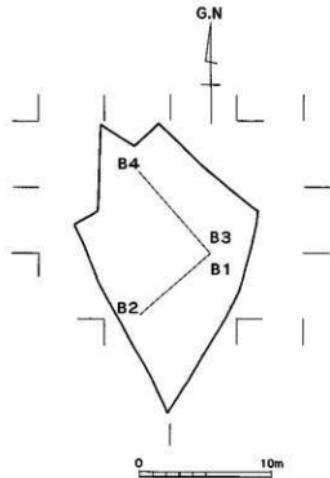
第2図 グリッド配置図 ( $S = 1/1,000$ )

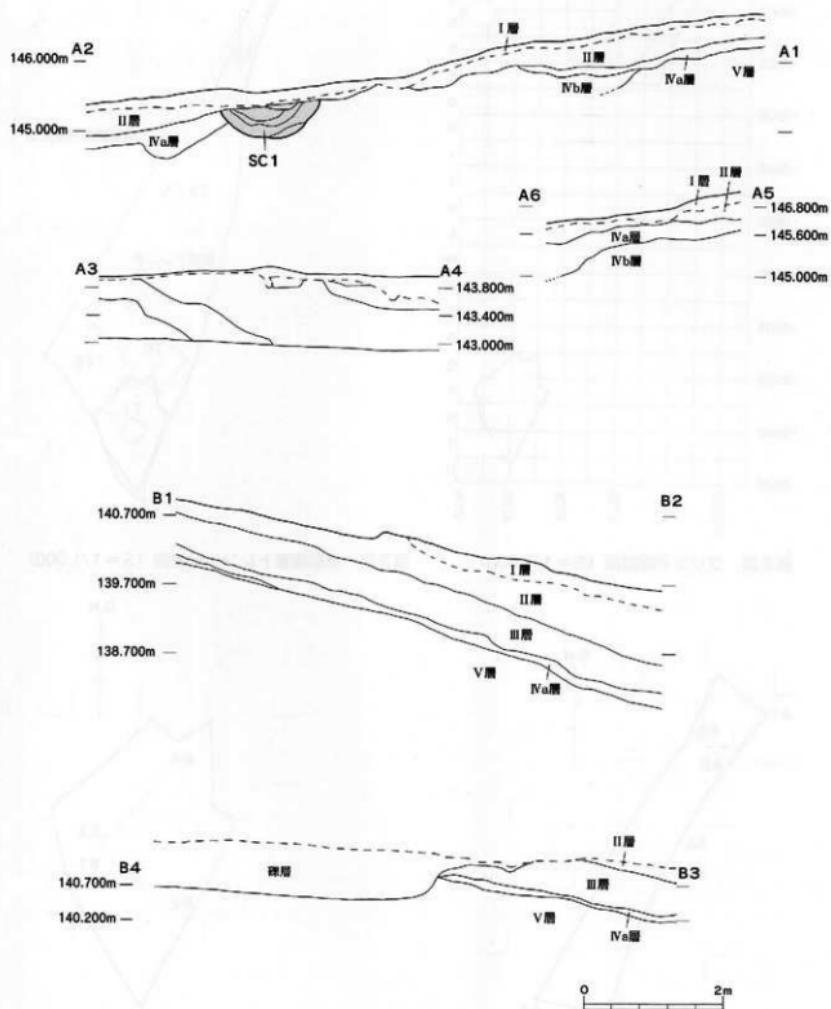


第3図 確認調査トレンチ配置図 ( $S = 1/1,000$ )



第4図 A・B区 土層実測ポイント位置図 ( $S = 1/400$ )





第5図 銀座第3A遺跡 土層図 (S=1/60)

や植林の影響で、遺物が大きく動いているものと判断した。このIV層面での礫の広がりを礫群として実測し、調査を終了した。

B区では、表探、表土中、II層、III層と連続して土器片・石器が出土した。東側は表土下がIV層であったが、西側の傾斜部ほどII・III層がそれぞれ厚くなり、西端では、合わせて2m近い厚さであった。遺物については、藏庄村遺跡があつた南東部より流れ込んだものと思われる。一方、長船が10cmを超える礫や赤化礫も確認されたが、いずれも散在しており遺構は確認できなかった。III層下位まで掘り下げ遺物がないことを確認し、調査を終了した。

### 第3節 遺跡の基本層序

I層	表 土
II層	黒褐色土
III層	暗褐色土
IV層	明黄褐色土
V層	赤褐色土

銀座第3A遺跡の土層堆積状況は、遺跡が緩斜面上に立地しているため安定していないが、基本層序は左記のとおりとなる。アカホヤや小林軽石など鍵層となる層が明確ではなく、各層の大まかな時代もはつきりしない。

I層は、表土である。II層は、黒褐色土(Hue 10YR 3/1)でI層に比べやや軟らかく、径0.1mm以下の白色微細粒を含みサクサクしている。縄文時代早期以降の包含層と思われる。III層は、暗褐色土(Hue 10YR 3/4)でやや粘性があり、下部は少しづつ褐色に変移している。やはり縄文時代早期の包含層と思われる。IVは、明黄褐色土(Hue 10YR 7/6)でやや粘性を持ち、小礫をわずかに含む。ATの二次堆積層と思われ、旧石器時代から縄文時代早期の包含層である。V層は、赤褐色(Hue 5YR 4/8)の粘土層で無遺物層と思われる。これ以下については礫層である。

以上述べた本遺跡の基本層序を藏庄村遺跡と比較してみると、縄文時代早期を中心とする包含層の第II・III層が、藏庄村遺跡の第VII層にあたると思われる。藏庄村遺跡ではアカホヤ火山灰の二次堆積が確認されているが、局地的なものであり、本遺跡では確認されなかった。

### 第4節 調査の記録

第2節で述べた遺構・遺物分布状況をまとめると以下のようになる。

- 第IV層・・・・A区のみ 磨群1基 石器2点 土器片2点
- 第III層・・・・B区のみ 遺構なし 土器片42点 石器9点
- 第II層・・・・A区 土坑1基 溝状遺構2条 土器片4点 石器3点  
B区 遺構なし 土器片(縄文土器・弥生土器)130点 石器39点
- 第I層(表土)・・土器(II・III層出土遺物との接合関係)6点

緩斜面であるということ、調査直前まで杉林・竹林であったということで、遺物が大きく動いているようである。B区II・III層については、出土状況が酷似しているとともに接合関係も見られる。

以上の調査結果を受け、本報告においては次のように報告することにした。

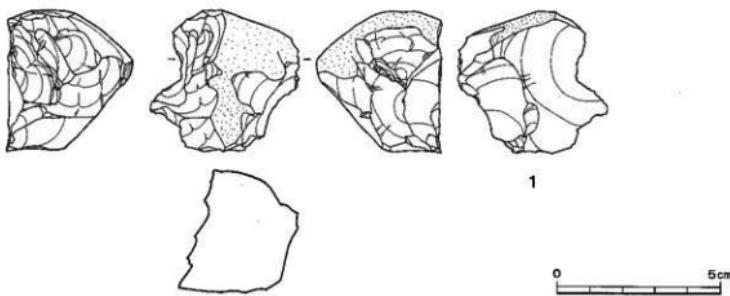
- 1 第1文化層(第IV層)・・・・A区のみ 旧石器時代～縄文時代早期
- 2 第2文化層(第II・III層)・・・A、B区 縄文時代早期以降

## 1 旧石器時代～縄文時代早期

A区C3グリッド周辺から南へ下る緩斜面に砾の広がりが見られた。C3グリッド周辺の高所が散漫で、比較的低所のE3グリッド周辺が特に密集している。また、個々の砾も大きいものが多い。しかし、集石的なまとまりは見られず、赤変・炭化物・掘り込み等もなかった。構成される砾は、5~10cm程度の黄褐色系凝灰岩の角砾・亜角砾が中心で、10cmを超える大型のものは1/5程度である。

これら砾の広がりの中に、石器3点、土器1点が出土した。1(第6図)は頁岩製の石核である。母岩の縁辺部を僅かに残しているが、裏面に残る比較的大きな剥離面から、幾つかに荒削りしたもの一つと思われる。荒削り後、打面を頻繁にかえ剥離を施している。同一母岩と思われる剥片は出土していない。

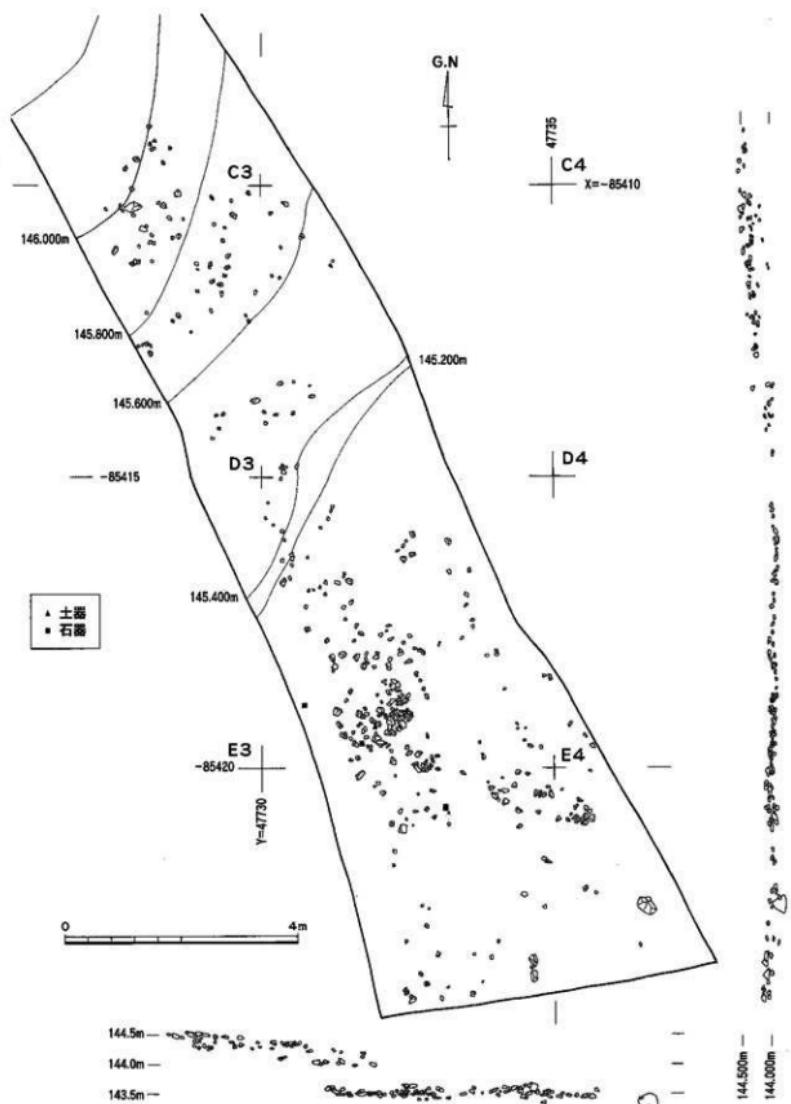
一方土器は、上位層からの落ち込みと考えられる。計測表のみの報告に留める。



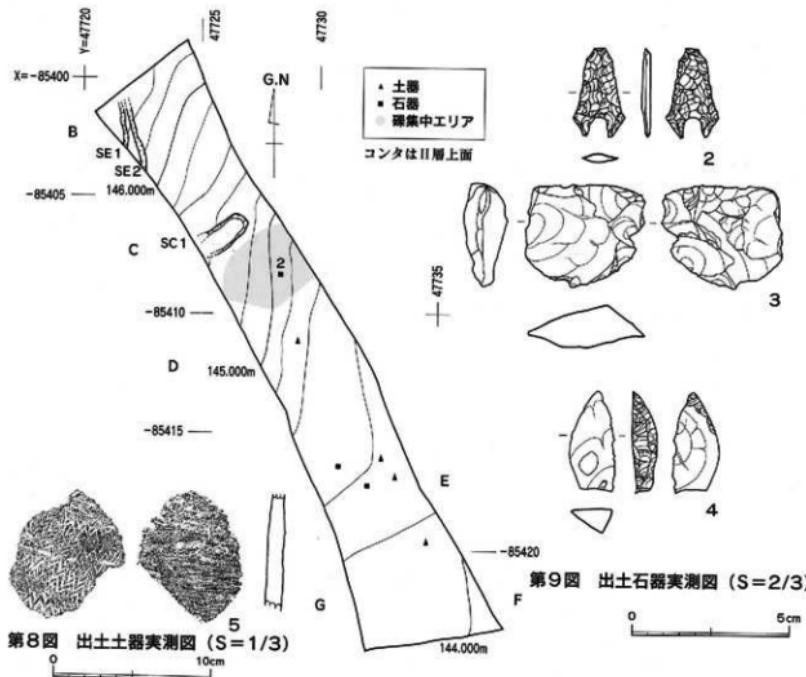
第6図 A区 出土石器 (S=2/3)

番号	注記番号	区	グリッド	層	種類	器種等	部位	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	レベル
1	1A	F4	IV	石器	石核			頁岩	4.4	4.6	3.9	66.0	-85420.727	47733.163	143.845
	73A	D3	IV	砾				砂岩	4.0	1.2	1.3	4.0	-85411.723	47729.994	144.273
	244A	E4	IV	石器	剥片			ホルンフェルス	8.8	7.0	2.2	115.0	-85418.877	47730.777	143.852
	246A	E5	IV	砾				尾崎隕性岩	8.6	6.0	2.7	121.0	-85422.134	47734.475	143.831
	247A	D3	IV	砾				砂岩	6.9	5.8	4.5	231.0	-85410.677	47729.505	144.282
	248A	E4	IV	土器	無紋	底部							-85419.377	47731.969	143.838
	249A	E4	IV	石器	剥片			尾崎隕性岩	8.0	4.0	2.5	54.0	-85419.671	47731.765	143.845

第1表 A区 出土遺物計測表



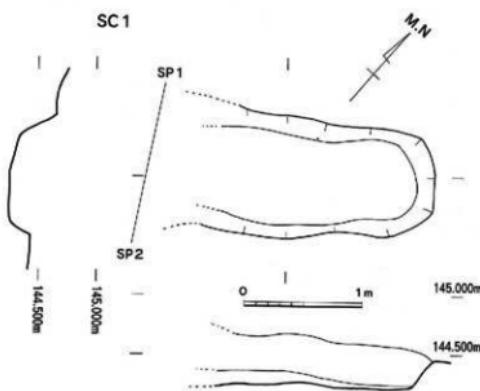
第7図 A区 碑群検出状況図 ( $S = 1/80$ )



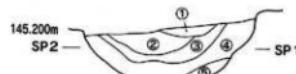
第10図 A区 遺構・遺物分布状況図 (S=1/200)

第9図 出土石器実測図 (S=2/3)

0 5cm



第11図 1号土坑実測図 (S=1/40)



第12図 1号土坑土層図

① 黒褐色土 (10 YR 3/1); やや硬い。径 0.5mm 以下の白色微細粒を含む。

② 黒色土 (10 YR 2/1); さくさくしている。  
①に比べやや軟質。径 0.5mm 以下の白色微細粒を含む。

③ 黒褐色土 (10 YR 2/2); ②より軟質。粘性がわずかにある。白色・透明微細粒が混じる。

④ 黒褐色土 (10 YR 2/3); やや粘性あり。IV層の  
暗褐色土がやや混じる。

⑤ 暗褐色土 (10 YR 3/3); やや粘性あり。V層の  
赤褐色土が混じる。

## 2 繩文時代早期以降

### (1) A区

C3グリッド周辺で黒色土中に礫のまとまりが見られた。構成礫は前述の調査第一面より全体的に小振りで角礫が大半を占めていた。総数約700点、重量は全体で約70kgである。自然礫と思われる。分布状況を見ると、北側で土坑1基、溝状遺構2条を検出した。このうち溝状遺構は埋土が表土であり、比較的新しいものと思われる。一方、遺物は散漫ではあるが、傾斜の緩やかな南部で出土した。上部よりの流れ込みと思われる。

#### ア 遺構

上記礫の北西部に隣接する形で検出されたのがSC1である。埋土がII層黒色土に酷似しており、層序確認のA1→A2ライン掘り下げ時に断面で確認がとれたもので、検出面はIV層上面であった。南西側が排水路埋設による工事で削平を受けていたため全体プランはつかめなかつたが、推定で約3m×1mの構円形になると思われる。下場の短軸は約0.9mあり、立ち上がりはやや急である。検出面からの深さは約40cm程度で、埋土は5層に分かれる。遺物や炭化物等は含まれず、時期・使途ともに不明である。

#### イ 遺物 第8~9図(2~5)

石器が3点、土器片が4点出土した。土器片はいずれも細片であり、時期等は不明である。石器はこのうち2点実測図を掲載した。2はチャート製の石鏃である。全体形は二等辺三角形を呈している。U字状の抉りを施し、脚部を作り出している。側縁は直線的に延び、基部付け根付近から比較的鋭角に加工を入れ尖った脚部を作り出している。3はやはりチャート製であるが、表裏とも大きく求心上に剥離が施され、側縁に沿って鋭利な部分を作り出している。また、打面部も除去の痕跡が見られる。細かな調整があまり見られないが、両面調整石器であると思われる。4は一側縁加工のナイフ形石器であるが、I層出土である。5は表土中出土であるが、山形押型文である。

### (2) B区

#### ア 土器

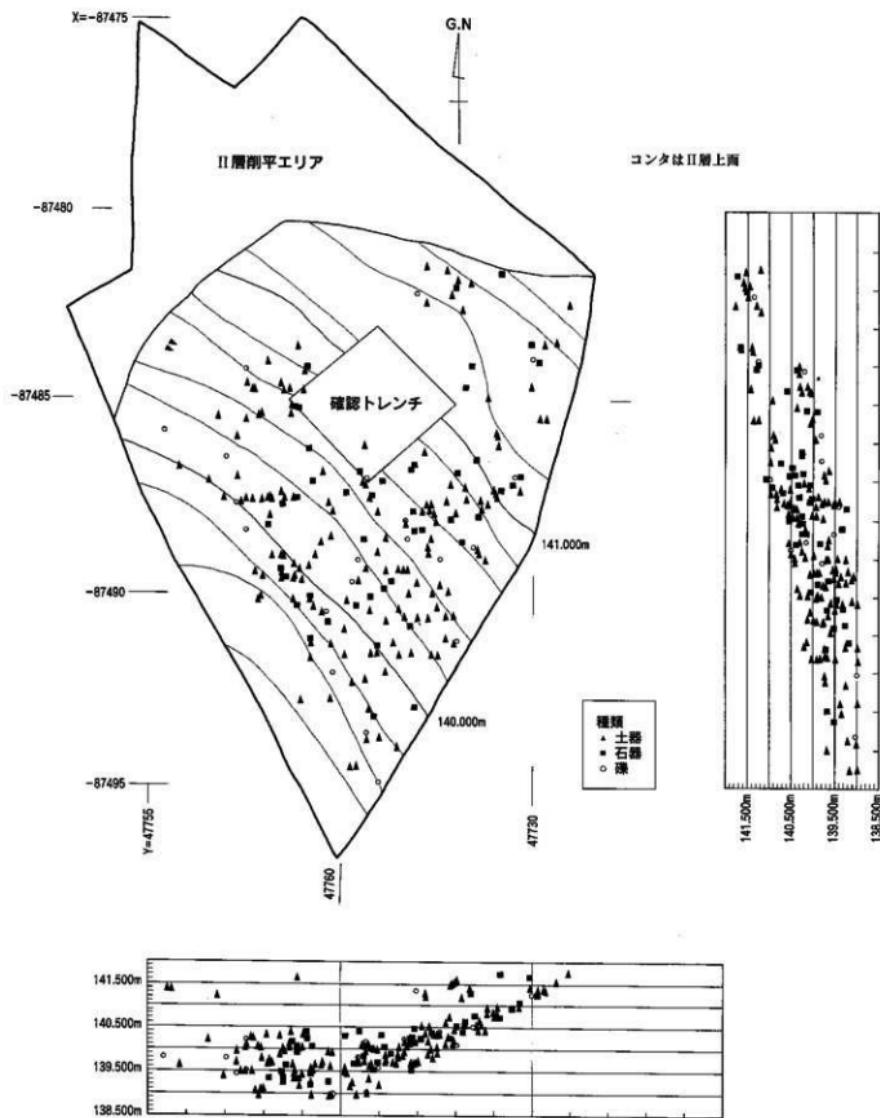
繩文時代早期以降に位置づけられる土器が出土している。本遺跡における土器は、細片が多く、器形や調整方法などによる分類が困難である。そこで文様を主な着眼点として、第1類から第7類の分類を行った。ここでは、分類の基準と根拠を記し若干の説明を行う。弥生土器が少量ながら出土している。

#### 第I類第14図 (6~7)

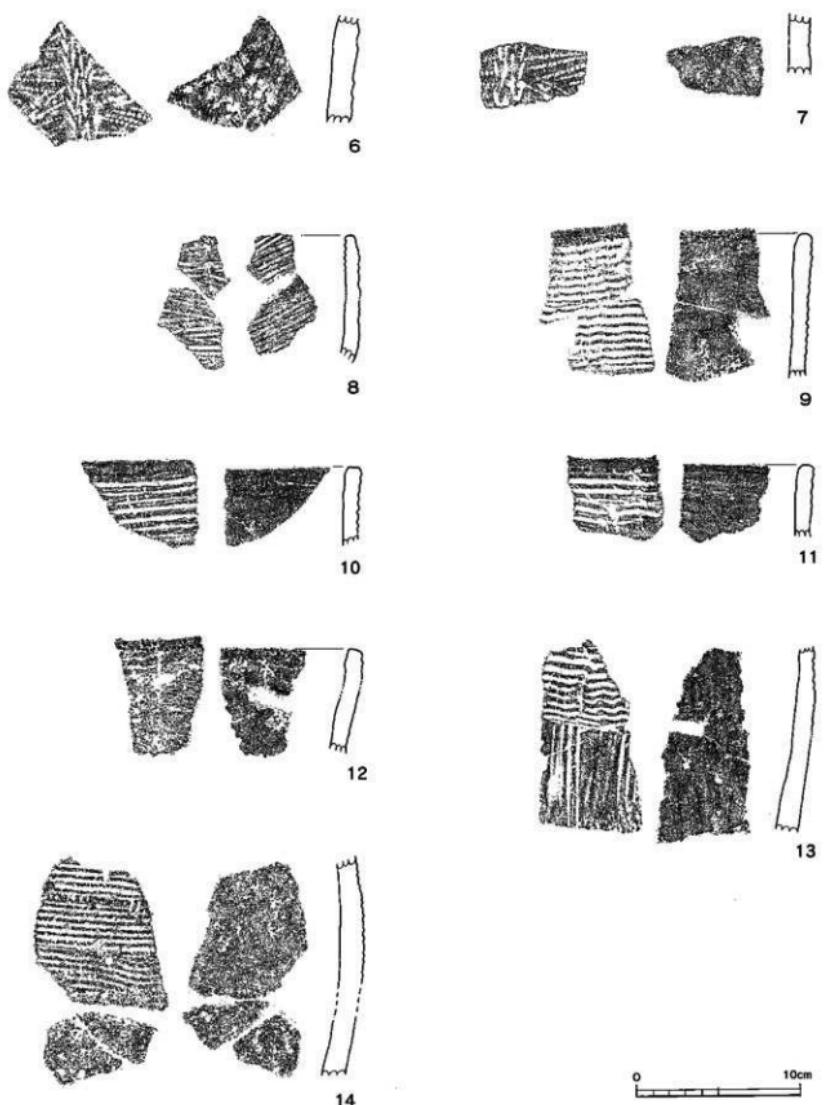
繩文早期に位置づけられるもので、口縁部から胴部にかけて貝殻腹縁による横・斜位の貝殻腹縁刺突文を施すもので、下剥峰式土器に相当するものと考えられる。ともに胴部で、横・斜位の貝殻腹縁連続刺突文を施している。

#### 第II類第14図 (8~14)

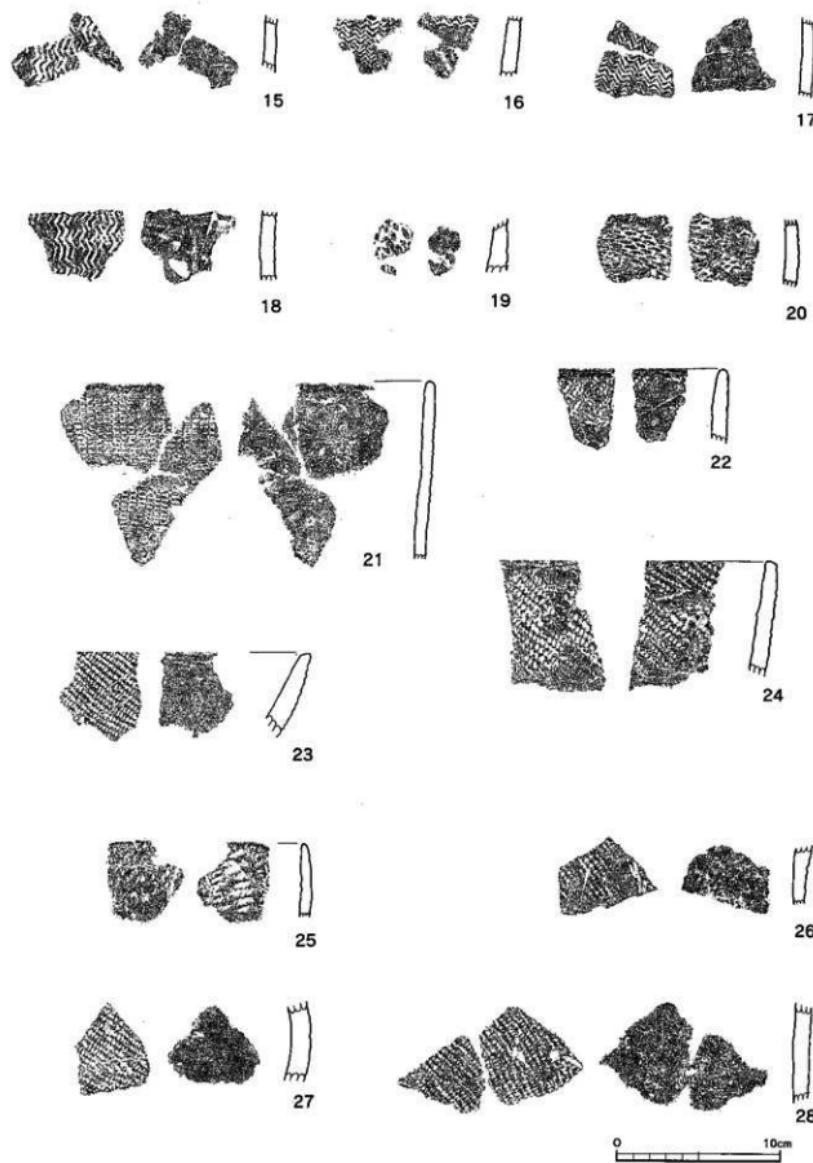
繩文早期に位置づけられる「円筒形貝殻条痕文」系の土器である。口縁部付近に横方向の貝殻条痕文を施すものである。8~12までは口縁部で、横方向の貝殻条痕文が施されている。13~14は胴部で、縦・



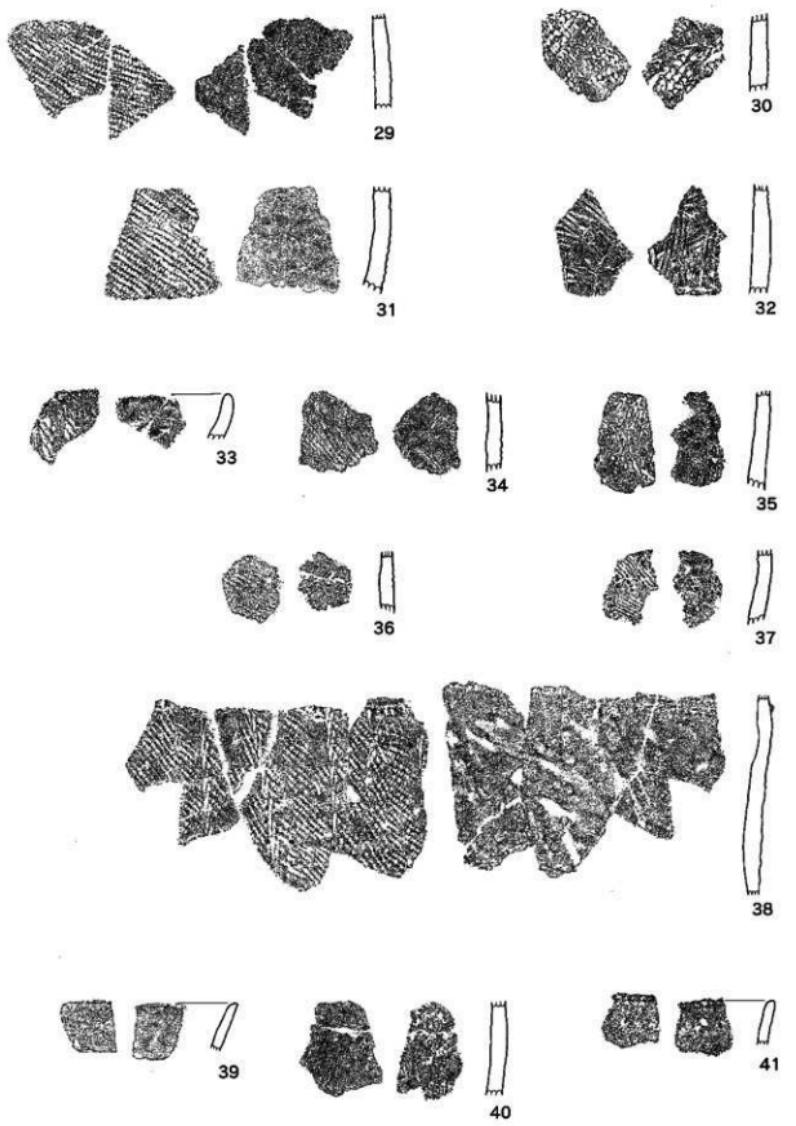
第13図 B区 遺物出土状況図 (S = 1/150)



第14図 B区 出土土器実測図① ( $S = 1/3$ )

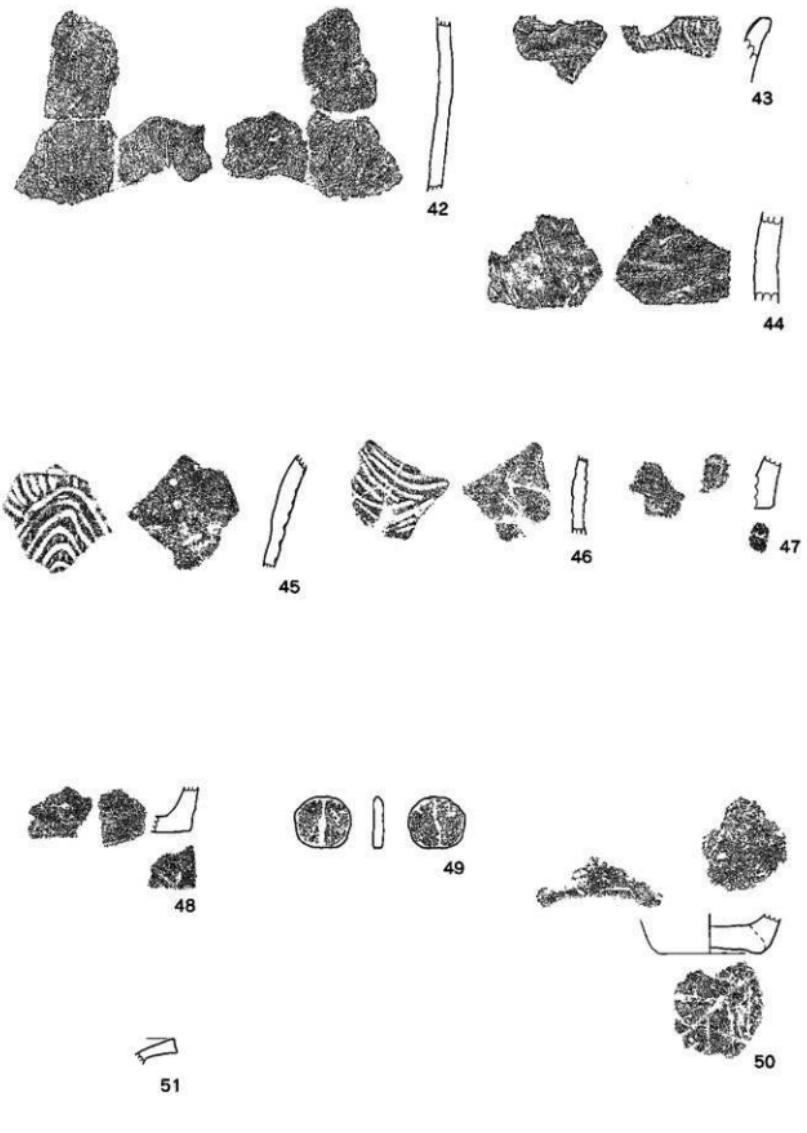


第15図 B区 出土土器実測図② ( $S = 1/3$ )



第16図 B区 出土土器実測図③ (S=1/3)





第17図 B区 出土土器実測図④ (S=1/3)

横方向に貝殻条痕文を施しているものである。

#### 縄文土器〔第III類第15図〕(15~21)

縄文時代早期に位置づけられるいわゆる「押型文」である。施文具あるいは施文方法によってさらに3つに細分した。

##### (a) 山形押型文(15~18)

15・18は、外面が縦方向回転の押型文である。16・17は、外面に斜め方向回転の押型文が施されている。

##### (b) 楕円押型文(19~20)

横方向の楕円押型文が施されている。

##### (c) 格子目押型文(21)

格子目状の押型文土器である。

#### 縄文土器〔第IV類第15・16図〕(22~38)

縄文時代早期に位置づけられる外器面に縄状の回転縄文を施す一群である。22は、撚糸文系の土器である。23~38は、斜め方向に回転縄文を施しているものである。23~25・33は口縁部で、他は胴部である。

#### 縄文土器〔第V類第16・第17図〕(39~42)

縄文時代早期に位置づけられる「無文土器」である。39・41は、細く尖った口辰部にわずかに外反させた口縁部をもつ。40・42は、わずかに膨らみのある胴部である。

#### 縄文土器〔第VI類第17図〕(43~50)

縄文後期の所産と考えられるものを一括してVI類に分類した。43は、口縁部で外面に斜め方向の貝殻条痕文を持っている。44は、胴部で外面に指押さえの痕がみられ、その上に縦や斜め方向のナデ調整がみられる。46は胴部で、曲線の短沈線文が施されている。47は底部で、外面に指ナデ痕がみられるものである。48は、全体的に風化気味で内面に横方向のナデが見られるものである。49は底部を利用した円盤状の土器である。最大長3.2cm、最大幅3.5cm、最大厚0.7cmを計る。50は底部で、全体的にナデ調整が施されている。

#### 弥生土器〔第VII類第17図〕(51)

弥生の口縁部で、外側に大きく外反するものである。

#### イ 石 器

##### 石鎌〔第18図〕(52~55)

4点出土した。52・53は全体形が正三角形を呈し、54・55は二等辺三角形を呈する。53が石英製で、他はチャート製である。52・53は先端部が欠損しているが、製作時のものか使用時のものかは明確でない。54・55は残存部から、いずれも基部に抉りを入れ脚部を作り出していることが分かる。54は、2と同じようにU字状に深い抉りが施されている。先端部は非常に鋭利である。一方55は、基部の抉りは比較的浅い。

##### スクレイバー〔第18図〕(56)

中型の扁平な砂岩製楕円彫を素材としている。剥片剥離工程においては、打面を作らず、上縁に若干

の調整を施し母岩から剥離させているため、円礫の自然面をそのまま残している。反対側より剥離を1回入れ刃部を作り出しているが、刃部そのものには、剥離と呼べる明確な加工痕は残されておらず、使用痕と思われる欠損が全体に見られる。前述の藏座村遺跡で報告された「蛤型剥片石器」の範疇に含まれると思われる。

#### 両面調整石器 [第18図] (57)

1点出土した。流紋岩製である。前述の2同様、表裏とも求心上に大きな剥離があり、加えて細かな調整も施されている。打面部も除去されている。

#### 二次加工剥片 [第18~20図] (58~65)

8点出土した。この中には調整剥離と思われるものも含まれているが、明確な類別ができず、二次加工のある剥片として報告する。

58はチャート製である。確認調査時にトレンチより出土した。縦長剥片素材で、片側縁の上部は大きな剥離で抉りを作り、先端は尖頭状に調整している。打面が残り、細かな調整も入っていない。

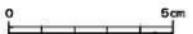
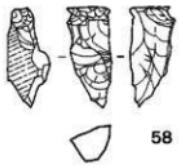
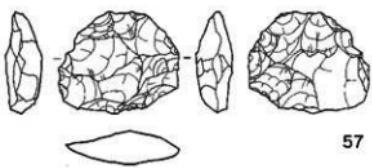
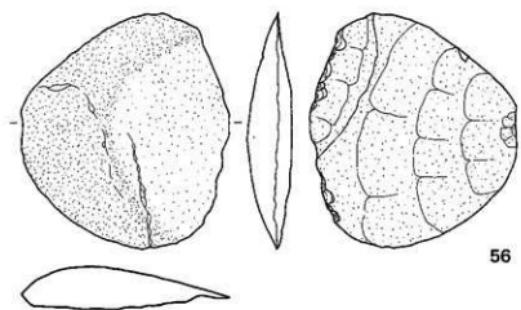
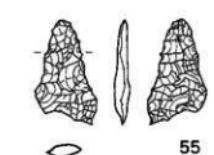
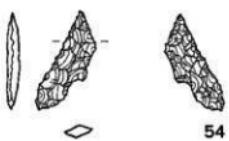
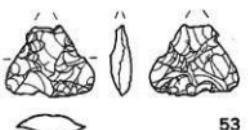
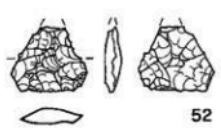
59・60もチャート製である。いずれも打面部を残し、縁辺部に表裏から調整を加えている。使用痕は見られない。61はホルンフェルス製の中型扁平な円礫の縦面を大きく残し、縁辺部に下部より少なくとも4回以上の剥離を施し、鋭利な端部を作り出している。側縁が大きく欠損しているため全体像は見えない。62は縦長剥片の腹面側に打面側と反対側の両方から調整を施し、扁平な剥片を作り出している。なお、打点周辺に調整痕が見られる63は頁岩製であるが、打面調整痕が見られる。64・65は、割れ口の色調に加え、黄褐色の縞の入り方が酷似しており、同一母岩の可能性がある。65は打面調整痕が見られる。

#### 石核 [第20図] (66)

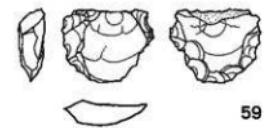
1点のみの出土である。66は黒曜石製である。片側縁にのみ細かな剥離が見られる。

#### その他の石器 [第20図] (67~69)

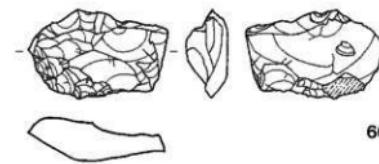
68は珪質頁岩製である。縦長剥片の側縁部に微細な剥離痕が見られる。



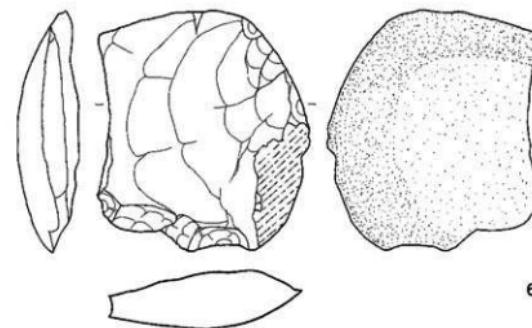
第18図 B区 出土石器実測図① (S=2/3)



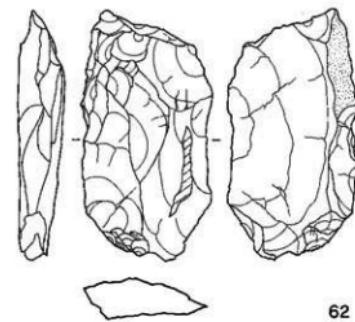
59



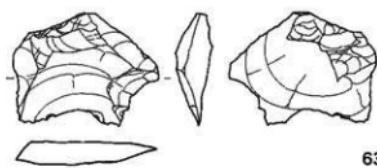
60



61



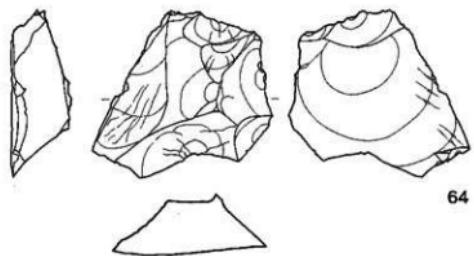
62



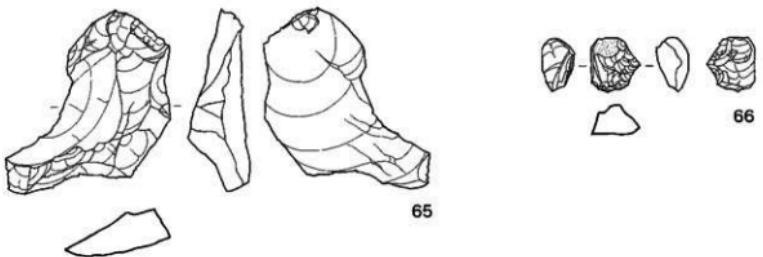
63



第19図 B区 出土石器実測図② (S=2/3)

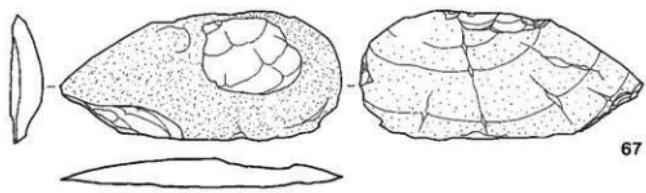


64

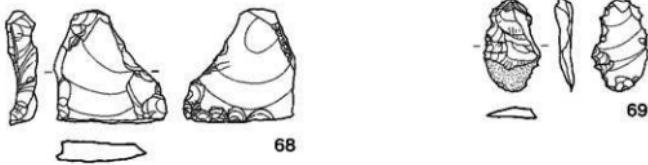


65

66



67



68

69



第20図 B区 出土石器実測図③ (S=2/3)

番号	種別	器種	部位	番号	法量 (cm)			手法・調整・文様ほか			色調	焼成	胎土の特徴	備考
					口径	底径	高さ	外面	内面	外				
5 織文 深鉢 脚部 A表 土	—	—	—	—	山形押型文の後部分的にナデ	横・斜め方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	3mm以下の黒色、透明白灰粒 4mm以下の淡褐色。灰褐色を含む。				
6 織文 脚部 BII	—	—	—	—	ヘラ状工具による斜め文と貝殻縫合压痕文	斜め方向のナデ	明赤褐色	明赤褐色	良好	0.5mm以下の乳白色粒・灰白色0.2mm以下の無色透明粒、0.1mm以下の無色透明白光沢。島色を含む。				
7 織文 深鉢 脚部 BII + III	—	—	—	—	貝殻縫合による横・側面方向の透明白灰粒文	斜め方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	1mm以下の乳白色粒、1mm以下の金色粒、2mm以下の灰白色粒、4mm以下の無色透明を含む。				
8 織文 深鉢 脚部 塗灰 II段	BII	—	—	—	横方向に各文部一部	斜め方向に貝殻縫合压痕文	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	1.5mm以下の無色粒、無色透明白光沢を含む。				
9 織文 深鉢 口縁部 BII + III	—	—	—	—	貝殻縫合による横・側面方向の透明白灰粒文	横・斜め方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	6mm以下の白色粒、2mm以下の灰白色粒、1.5mm以下の柱状無色光沢粒を含む。				
10 織文 深鉢 口縁部 BII	—	—	—	—	横方向に貝殻縫合压痕文	横方向にナデ、斜め方向に丁寧なナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	3mm以下の柱状無色光沢粒、4mm以下の無色粒、1.5mm以下の無色透明粒、2mm以下の白色粒を含む。				
11 織文 深鉢 口縁部 B表 土	—	—	—	—	4条の条文文 やや斜め方向の集束文	横方向に丁寧なナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	2mm以下の柱状無色光沢粒、1.5mm以下の白色粒、2.5mm以下の無色透明粒、1.5mm以下の白色粒を含む。				
12 織文 口縁部 BIII	—	—	—	—	横方向の条文文	横方向のナデ、斜め方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	5mm以下の灰白色粒、灰黄色を含む。				
13 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	横方向に各文部横文 側面方向に貝殻縫合压痕文	横方向のナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の半透明灰白粒、無色の金黄色を含む。			スス付着	
14 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	横方向に貝殻縫合压痕文	ナデ(風化ぎみ)	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	4mm以下の無色粒、5mm以下の柱状無色光沢粒、2mm以下の灰白色を含む。			スス付着	
15 織文 深鉢 脚部 BIII + 表上	—	—	—	—	山形押型文	横・斜め方向のナデ	明赤褐色	明黄褐色	良好	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の赤褐色粒、微細な無色光沢粒を含む。				
16 織文 深鉢 脚部 B表 土	—	—	—	—	山形押型文	山形押型文	橙	橙	良好	6mm程度の白灰粒、1mm以下の乳白色粒を含む。				
17 織文 深鉢 脚部 BII + III	—	—	—	—	山形押型文	横方向にナデ	にぶい 黄褐色	褐灰色	良好	2mm以下の白色粒、5mm以下の無色光沢粒を含む。				
18 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	山形押型文の後部分的ナデ	横・斜め方向のナデ	橙	明赤褐色	良好	5mm以下の白色粒透明粒、3mm以下の赤褐色粒、1mm以下の無色光沢粒、微細な無色透明光沢粒を含む。				
19 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	横押型文	ナデ	明赤褐色	にぶい 白色	良好	1.5mm以下の無色粒、1mm以下の乳白色粒、微細な透明白光沢粒を含む。			スス付着	
20 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	一端押型文	一端押型文ナデ	赤褐色	黄褐色	良好	0.2mm以下の無色透明粒、0.1mm以下の灰白色粒、柱状の無色光沢粒を含む。				
21 織文 深鉢 口縁部 BIII	—	—	—	—	物丁口押型文	横・斜め方向にナデ	にぶい 赤褐色	赤褐色	良好	0.1mm以下の無色透明白光沢粒、0.2mm以下の赤褐色粒、灰白色を含む。				
22 織文 口縁部 BII	—	—	—	—	斜め・横方向に構文文	斜め・横方向に構文文	明赤褐色	明赤褐色	良好	微細な光沢粒、1.5mm以下の無色透明粒を含む。				
23 織文 深鉢 口縁部 BII	—	—	—	—	斜め方向に構文文	斜め方向に構文文	にぶい 赤褐色	にぶい 白色	良好	微細な無色透明光沢粒、2mm以下の赤褐色粒、1mm以下の灰白色粒を含む。			スス付着	
24 織文 深鉢 口縁部 BII	—	—	—	—	斜め方向に構文文	斜め方向に構文文	明赤褐色	褐色	良好	2mm以下の無色光沢粒、2.5mm以下の無色透明光沢粒を含む。				
25 織文 深鉢 口縁部 BII	—	—	—	—	貝殻縫合文	貝殻縫合文	赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	0.5mm以下の赤褐色粒、褐褐色0.1mm以下の無色透明光沢粒、灰白色を含む。				
26 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	斜め方向に織文の後	横・斜め方向にナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	0.2mm以下の無色透明粒、灰白色・乳白色・赤褐色粒、微細な無色透明光沢粒を含む。				
27 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	斜め方向に構文文	横・斜め方向にナデ	にぶい 橙	にぶい 橙	良好	微細な無色光沢粒、4mm以下の赤褐色粒、2mm以下の黃褐色を含む。				
28 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	構文	横方向にナデ	にぶい 黄褐色	明赤褐色	良好	2mm以下の黄褐色粒、1.5mm以下の柱状黄褐色光沢粒、4mm以下の灰白色粒、3mm以下の灰白色粒を含む。				
29 織文 深鉢 脚部 BII	—	—	—	—	斜め方向に構文文部分的に捺の跡がある。	丁寧なナデ	にぶい 赤褐色	赤褐色	良好	3mm以下の黄褐色粒、1.5mm以下の柱状黄褐色光沢粒、2mm以下の灰白色粒、3cm以下の灰白色粒、微細な無色透明光沢粒を含む。				

第2表 出土土器観察表 (1)

番号	種別	番種	部位	番号	法量(cm)		手法・調整・文様はか		色 製成		胎土の特徴	備考		
					口径	底径	高さ	外 面	内 面	外 面	内 面			
31	織文	深鉢	頭部	BII	—	—	—	斜め方向に織文 基盤・斜め方向に丁寧なナテ 分割にナテ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	3mm以下の茶褐色光沢白芯、1.5mm以下の灰色光沢、1mm以下の無色透明光沢、柱状の黑色光沢を含む。		
32	織文		頭部	BII	—	—	—	斜め方向と縦の条痕 文後ナテ	斜め方向と縦の条痕 文後ナテ	赤褐色	赤褐色	良好	1mm以下の無色透明光沢、0.5mm以下の赤褐色、無色透明光沢を含む。	
33	織文	深鉢	口縁部	BIII	—	—	—	斜め方向に直巻車紋 文	ナテ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	無地な無色透明光沢、2mm以下の灰白色、3mm以下の赤褐色を含む。	
34	織文	深鉢	側部	BII	—	—	—	斜め方向に朱赤文 文ナテ	ナテ	にぶい 赤褐色	暗赤褐色	良好	0.4mm以下の暗赤褐色、0.2mm以下の灰白色、0.1mm以下の無色透明光沢、暗赤褐色を含む。	
35	織文	深鉢	頭部	BII	—	—	—	黒赤文 丁寧なナテ	斜め方向のナテ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	2mm以下の灰白色、細緻な無色透明光沢を含む。	
36	織文	深鉢	頭部	BII	—	—	—	斜め方向の黒赤文 斜め方向のナテ	ナテ	にぶい 赤褐色	暗赤褐色	良好	0.2mm以下の灰白色、0.1mm以下の無色透明光沢、無色透明光沢を含む。	
37	織文	深鉢	側部	BII	—	—	—	斜め方向に5~7条 の黒斑	ナテ 黒斑	にぶい 赤褐色	灰黄褐色	良好	1mm以下の灰白色、微細な無色透明光沢を含む。	
38	織文		側部	BII + 表土	—	—	—	斜め方向に織文、部分的に縦方向に斜め方向に織文 部分的なナテ	斜め方向にナテ 割合に深いナテ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	0.2mm以下の灰白色、乳白色、黒色光沢、0.3mm以下の無色透明光沢を含む。	
39	織文	深鉢	口縁部	BII	—	—	—	後・斜め方向にナテ	ナテ	灰黃褐色	にぶい 赤褐色	良好	無地な無色透明光沢、1mm以下の赤褐色、1mm以下の灰白色を含む。	
40	織文	深鉢	頭部	BII	—	—	—	斜め方向にナテ	ナテ	にぶい 赤褐色	橙	良好	0.5mm以下の無色透明光沢を含む。	
41	織文	深鉢	口縁部	BII	—	—	—	ナテ	ナテ	褐	褐	良好	1mm以下の黒色光沢、1.5mm以下の灰褐色、4mm以下の黄褐色、3mm以下の赤褐色を含む。	
42	織文	深鉢	頭部	BII + 表土	—	—	—	縦方向にナテ	斜め方向にナテ	にぶい 赤褐色	にぶい 赤褐色	良好	0.5mm以下の無色透明光沢、2mm以下の灰白色、1mm以下の無色透明光沢を含む。	
43	織文		口縁部	BII	—	—	—	横方向にナテ	短沈線	にぶい 黄褐色	橙	良好	1.5mm以下の無色透明光沢、1.2mm以下の無色透明光沢、2mm以下の白色、2.5mm以下の無色透明光沢を含む。	
44	織文	深鉢	頭部	BII	—	—	—	縦や斜め方向にナテ 手押さえの跡	横や斜め方向にナテ	にぶい 赤褐色	明赤褐色	良好	0.2mm以下の灰白色、0.1mm以下の無色透明光沢、無色透明光沢を含む。	
45	織文		頭部	BIII	—	—	—	通じた短沈線文滴 巻き状に短沈線	ナテ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	良好	3.5mm以下の灰白色、4mm以下の灰褐色、2.5mm以下の無色透明光沢、6.5mm以下の無色透明光沢、1.5mm以下の赤褐色を含む。	
46	織文		頭部	B炎土	—	—	—	曲化織文	横・斜め方向のナテ	にぶい 赤褐色	橙	良好	5mm以下の灰白色、9mm以下の灰褐色、3mm以下の無色透明光沢、3mm以下の赤褐色を含む。	
47	織文	深鉢	底部	BII	—	—	—	丁寧なナテ	丁寧なナテ	にぶい 赤褐色	暗赤褐色	良好	2mm以下の灰白色、3mm以下の無色透明光沢、無地な無色透明光沢、2mm以下の赤褐色を含む。	
48	織文	深鉢	底部	BII	—	—	—		横方向にナテ	赤褐色	暗赤褐色	良好	2mm以下の無色透明光沢、無色透明光沢、灰白色、灰白色、1mm以下の黒色透明光沢を含む。	
49	興文	深鉢	底部	BIII	—	—	—	ナテ	ナテ	明褐色	明褐色	良好	3mm以下の灰白色、1mm以下の無色透明光沢、1mm以下の黒色透明光沢を含む。	
50	弥生	深鉢	口縁部	BII	—	—	—	横方向にナテ	横方向にナテ	にぶい 黄	黑褐色	良好	0.3mm以下の灰白色、赤褐色、0.1mm以下の無色透明光沢、無色透明光沢を含む。	

第3表 出土土器観察表(2)

番号	注記番号	区	グリッド	層	種別	種類等	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	レベル	備考
2	75	A C3	II	石器	石核	チャート	2.9	1.7	0.3	1.1	-85407.443	47727.734	144.776		
3	74	A E4	II	石器	二次加工剥片	チャート	3.4	3.9	1.4	15.2	-85416.352	47730.837	144.108		
4	表土-括	A	I	石器	ナイフ形石	真岩	3.2	1.5	0.8	3.4					
52	211	B S10	II	石器	石核	チャート	2.0	2.3	0.5	2.5	-85487.450	47760.801	139.990		
53	161	B S10	II	石器	石核	チャート	2.2	2.7	0.7	3.4	-85487.084	47761.049	140.317		
54	112	B S10	II	石器	石核	チャート	3.0	1.8	0.4	1.2	-85488.607	47763.188	140.397		
55	55	B S9	II	石器	石核	チャート	3.3	1.1	0.5	2.2	-85487.100	47759.249	140.063		
56	131	B T10	II	石器	スクレイパー	砂岩	7.3	6.4	1.4	62.0	-85493.240	47760.638	139.519		
57	189	B R9	III	石器	石核	真岩	3.2	3.7	1.1	12.9	-85487.691	47758.472	139.219		
58	3	B 剥離トレ	III	石器	剥片	チャート	3.1	1.4	1.3	4.6					
59	46	B R10	II	石器	二次加工	チャート	2.2	2.8	0.8	5.2	-85484.086	47763.393	141.287		
60	43	B S10	II	石器	二次加工剥片	チャート	2.8	4.3	1.3	14.0	-85486.520	47763.520	140.727		
61	157	B T9	II	石器	二次加工剥片	ホルンフェルス	7.5	6.5	1.9	106.5	-85489.575	47758.575	139.624		
62	165	B S9	II	石器	二次加工剥片	ホルンフェルス	7.9	4.0	1.4	48.8	-85489.357	47758.442	139.464		
63	235	B T10	II	石器	二次加工剥片	真岩	3.5	4.5	1.1	14.1	-85490.830	47761.825	139.516		
64	158	B S9	III	石器	二次加工剥片	ホルンフェルス	5.1	5.5	1.9	42.8	-85488.197	47758.113	139.337		
65	221	B S9	II	石器	二次加工剥片	ホルンフェルス	5.6	5.1	1.8	29.5	-85486.790	47761.814	140.216		
66	121	B S10	II	石器	石核	黒曜石	1.7	1.0	1.0	2.3	-85489.675	47761.293	139.886		
67	16	B R10	II	石器	剥片	真岩	4.4	4.6	3.9	66.0	-85482.028	47762.975	141.512		
68	96	B S10	II	石器	二次加工剥片	褐灰質真岩	3.6	3.4	1.0	10.0	-85488.304	47762.115	140.226		
69	表土-括	B	I	石器	二次加工剥片	チャート	3.0	1.9	0.6	2.0					
148	B T9	II	石器	剥片	ホルンフェルス	4.0	8.6	0.7	37.0	-85490.317	47758.869	139.303			
II層-括	B 剥離トレ	II	石器	石核	黒曜石	1.7	1.0	1.0	2.3						
6	B T9	II	石器	剥片	ホルンフェルス	4.0	3.4	0.9	8.0	-85492.982	47761.910	139.673			
11	B S10	II	石器	剥片	ホルンフェルス	7.9	4.1	1.3	29.0	-85487.162	47764.468	140.919			
13	B S10	II	石器	剥片	ホルンフェルス	4.5	6.7	1.2	36.0	-85486.954	47764.677	141.051			
27	B S10	II	石器	剥片	流紋岩	6.0	3.1	1.4	21.3	-85490.086	47760.754	139.934			
28	B S10	II	石器	碎片	チャート	1.7	1.1	0.3	0.1	-85489.862	47761.137	140.044	参考資料		
29	B S10	II	石器	碎片	チャート	1.2	1.6	0.4	0.1	-85489.334	47760.851	139.969			
54	B S9	II	石器	剥片	ホルンフェルス	11.6	5.9	3.0	112.0	-85487.520	47758.851	140.077			
56	B S9	II	石器	碎片	チャート	1.0	1.0	0.2	0.1	-85486.250	47759.139	140.244			
57	B S9	II	石器	剥片	ホルンフェルス	2.8	4.8	1.1	12.0	-85486.842	47760.474	140.399			
70	A E4	II	石器	剥片	尾鈎酸性岩	6.2	4.8	2.0	35.0	-85417.209	47732.086	143.950			
78	B T10	II	石器	剥片	尾鈎酸性岩	7.9	9.5	4.5	36.0	-85491.376	47760.960	139.693			
79	B T10	II	石器	剥片	チャート	1.5	1.7	0.5	1.0	-85490.335	47760.416	139.677			
80	B T10	II	石器	剥片	チャート	2.9	1.4	0.8	3.0	-85490.303	47760.369	139.674			
100	B S10	II	石器	微細剥離剥片	褐灰質真岩	3.6	2.3	0.5	5.0	-85487.977	47763.587	140.546			
104	B S10	II	石器	碎片	チャート	1.4	1.2	0.2	0.1	-85487.304	47764.154	140.712			
111	B R10	II	石器	碎片	ホルンフェルス	1.7	1.4	0.2	0.1	-85483.494	47764.943	141.644			
115	B S9	II	石器	剥片	真岩	3.1	1.1	0.6	2.0	-85486.855	47763.017	140.521			
123	B S9	II	石器	剥片	尾鈎酸性岩	3.6	7.6	1.6	44.0	-85488.324	47761.901	140.147			
129	B S9	II	石器	碎片	砂岩	3.0	1.5	0.4	0.1	-85487.392	47760.113	140.298			
145	B T9	II	石器	碎片	チャート	2.9	1.7	0.8	3.0	-85491.216	47759.205	139.176			
146	B T9	II	石器	剥片	真岩	2.0	3.2	1.0	5.0	-85490.760	47759.665	139.258			
150	B S9	II	石器	剥片	ホルンフェルス	8.4	4.5	1.3	41.0	-85490.060	47759.215	139.443			
160	B S10	II	石器	剥片	流紋岩	6.0	2.2	2.3	13.0	-85486.631	47761.912	140.447			
169	B R10	III	石器	剥片	ホルンフェルス	4.2	3.6	1.2	11.0	-85484.645	47763.234	140.598			
182	B S9	III	石器	二次加工剥片	ホルンフェルス	10.8	8.9	3.3	356.0	-85485.162	47758.737	140.149			
188	B R9	III	石器	剥片	ホルンフェルス	4.0	2.5	0.9	6.0	-85484.094	47759.090	140.370			
191	B R11	III	石器	剥片	チャート	2.7	2.1	0.7	4.0	-85483.980	47765.139	141.241			
196	B R10	III	石器	微細剥離剥片	真岩	3.9	2.5	1.5	11.0	-85481.645	47764.164	141.709			

第4表 出土石器計測表

## 第5節 まとめ

調査対象エリアのうち、比較的傾斜の緩やかな部分が削平を受け急傾斜地の部分のみの調査であった。地滑りなどによる不安定な堆積状況に加え、直前までの植林の影響もあり、文化層の認定が困難であった。ここでは、出土遺物について、隣接地の藏座村遺跡との比較を行い、まとめとしたい。

### 1 土器について

調査第2面(II・III層)中より、縄文土器類が出土した。多くは藏座村遺跡と同様に、縄文時代早期に位置づけられる。個数は少ないが、貝殻文系(本遺跡のI類)・円筒形貝殻条痕系(本遺跡のII類)・押型文系(本遺跡のIII類)・条痕文系・撫糸文系(本遺跡のIV類)などバラエティに富んでいる。

I類は、貝殻腹縁による刺突文を横・斜位に交叉状に配しており、新東晃一氏の設定する「下剥峰式土器」の範疇に入るものと考えられる。II類は、横施文のみのものと、横施文と縱施文の複合のものがみられる円筒形貝殻条痕文土器である。III類は、押型文である。本遺跡では、「稻荷山式土器」・「田村式土器」などに比定される土器が出土していて、ある程度の時間差を有する。IV類は、外面が縄状の工具によって施文されたものであり撫糸文系の土器と思われる。

このように本遺跡は、藏座村遺跡のように貝殻文系・円筒形貝殻条痕文系・押型文・縄文・撫糸文系など複数の土器型式が混在し、複雑な様相を呈している。しかし、縄文早期前半から早期末期にかけての範疇には収まると思われる。本遺跡は、旧石器と縄文早期土器が同じ包含層から検出されており、各類の共伴関係や縦年代の序列は、見いだせなかった。

### 2 石器について

全体で50点、総重量約1,800g、製品として明確に位置づけられるものが数点、接合資料はなしという調査結果であった。

B区II層出土のスクレイパー(55)は、7.3cm×6.4cmの楕円形、断面細柳葉形で、藏座村遺跡でいう「船形剥片石器」にあたると思われる。藏座村遺跡では、全14点を利用する剥片や刃部の作出方法によって5類に分類している。55については、III類に相当するものと思われる。藏座村遺跡でもふれられているが、石核と思われる円礫は確認できなかった。

出土遺物を石材から見てみると、チャート33%、ホルンフェルス29%、頁岩14%、尾鈴山酸性岩6%、凝灰質頁岩4%、黒曜石4%、砂岩4%、流紋岩4%、石英1%であった。この点について藏座村遺跡では、観察表に示された80点のうち23点(29%)がチャートであり、傑出していることが分かる。器種では、石核が主であるが、本遺跡でも見られた両面調整石器にも利用されている。

以上述べてきたように、藏座村遺跡に隣接する傾斜地ということで、関連する遺物が多く出土した。

### 【引用参考文献】

- 宮崎県埋蔵文化財センター2002 「藏座村遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第53集  
宮崎県埋蔵文化財センター2001 「木脇遺跡」 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第40集





A区表土除去状況（北より）



A区検出状況（北より）



A区検出状況（南より）



B区検出状況（東より）



SC 1完掘状況（東より）



A区出土石器



B区出土土器①



B区出土土器②



B区出土土器③



B区出土土器④



B区出土土器⑤



B区出土土器⑥



B区出土土器⑦



B区出土土器⑧



B区出土石器①



B区出土石器②



B区出土石器③



B区出土石器④

# 報告書抄録

ふりがな	きたうしまきだいごいせき・ぎんざだいさんえいいせき					
書名	北牛牧第5遺跡・銀座第3A遺跡					
副書名	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2					
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書					
シリーズ番号	第80集					
執筆担当者名	草薙良雄・山田洋一郎					
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター					
所在地	宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019					
発行年月日	2003年11月28日					
所取遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
きたうしまきだいごいせき 北牛牧第5遺跡	みやざきけんこくぐん 宮崎県兒湯郡 たかなかちょうおおあらが 高鍋町大字 うわえあおきたうしまき 上江字北牛牧 7482-9,10 7422-1 7423-1 7424 7419-1 7418-1,2,3 7416 7417	32度 09分 07秒	131度 29分 00秒	[一次調査] 平成12年11月6日 ～ 平成13年8月31日  [二次調査] 平成13年9月10日 ～ 平成14年2月19日	17,000m <sup>2</sup>	東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う 発掘調査
ぎんざだいさんえいいせき 銀座第3A遺跡	みやざきけんこくぐん 宮崎県兒湯郡 かわみちちょうおおあらが 川南町大字 かわみなみあおあらがの 川南字明野 2622-3 2623-4	32度 13分 42秒	131度 30分 20秒	平成14年6月17日 ～ 平成14年7月31日	300m <sup>2</sup>	
	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
北牛牧第5遺跡	散 布 地	旧石器時代 縄文時代草創期～早期	礫群1基 陥し穴状遺構2基 溝状遺構16条	ナイフ形石器(今峰型) 剥片尖頭器 角錐状石器 石鐵 尖頭器		
銀座第3A遺跡	散 布 地	縄文時代早期	礫群1基 土坑1基	石鐵 スクレイパー 縄文早期土器		

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第80集

北 牛 牧 第 5 遺 跡  
銀 座 第 3 A 遺 跡

Kitaushimaki 5 Site  
Ginza 3 A Site

東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

発行年月日 2003年11月28日

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県宮崎郡佐土原町大字下那珂4019番地

電話 0985 (36) 1171

印 刷 小柳印刷株式会社

宮崎県宮崎市旭1丁目6-25

電話 0985 (24) 4155